
へりくつエッセイ

真浦塚真也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

へりくつエッセイ

【コード】

N0172F

【作者名】

真浦塚真也

【あらすじ】

真浦塚真也の『へりくつ』だらけの『エッセイ』

はじめに

皆さん、はじめまして。真浦塚真也と言います。自分のペースでのんびりと小説等を書いている者です。

今回、『へりくつエッセイ』という連載を書いてみようと思いついて、ここで趣旨を説明させて頂きたいと思えます。

『へりくつエッセイ』は文字通り、

「へりくつ」で書く

「エッセイ」です。

自分の持てるだけのへりくつ、言い訳を注いだエッセイに出来ればと考えています。ただ、このエッセイは私の偏った考え方で書いていく事が予想されますので、読む人によっては気分を悪くされることがあるかもしれません。その時は、本当に申し訳ありません。

飽きやすい性格なんで、いつまで連載するかは分かりませんが、軽い気持ちで御覧頂き、楽しんで頂けたらなあと考えています。

それでは、よろしくお願ひします。

はじめに（後書き）

御覧頂き有難うございます。いつまで連載するかは分かりませんが、よろしくお願い致します。

その1 メニューの名前について思うこと

最近、というより前から思っていることなんです。レストランや喫茶店等の飲食店のメニューの名前に時々考えさせることがあります。まあ、別に全部の店がそうと言うわけでなく、たまにという感じなんですけど。

例えば、レストラン等でたまに見るこんな感じのメニューの名前で考えさせられることがあります。

『シェフのきまぐれおすすめメニュー ○○のソテーと○種類の季節の野菜○○たっぷり○○ソースを添えて』

長すぎます。読む方の気持ちも考えてほしいものです。

もし、これが初デートで行った店だとしたらどうでしょう。こう言う名前のメニューのある店は、大抵高級感の漂う感じがします。そこに初デートで行くわけです。男性の緊張は計り知れないものでしょう。女性も緊張するでしょう。

そこにこの長い名前のメニューが登場です。男性からしてみれば、『なぜこんなひどいことをするのか』と神を恨んでしまうでしょう。そして女性はその様子をじっと見守るしかないのです。

そして沈黙の中、男性はメニューを読み上げます。

『シェフのきまぐれおすすめメニュー ○○のソチエー…』

そりゃ噛んでしまっても仕方ないでしょう。この状況じゃ仕方ないでしょう。お店の方もそこらへんは気に掛けてほしいものです。

と言う前に、『シェフのきまぐれおすすめメニュー』ってなんでしようか。何で、きまぐれなんですか。そしてそれを、何故おすすめメニューにしちゃったんでしょうか。そんなんでいいんですか。でもまあ、料理自体はおいしいんですけどね。

後、もう一つ僕が気になっているメニューの名前のタイプがあります。それはたまにラーメン屋さんで見るこんな名前のメニューです。

『○ちゃんラーメン』

これは一見考えさせることが無いように感じられます。

でも、このお店の名前が『○○軒』とか『○○飯店』だったらどうでしょう。

実は、『○ちゃんラーメン』の【○ちゃん】はそのお店の店主の名前の愛称だったりするんです。大輔さんだったら大ちゃん、良信さんだったら良ちゃんという感じですね。

そこで違和感を感じませんか。よく考えてみてください。あなたは、はじめて会った自分より年上の店主に向かって『○ちゃん』と馴れ馴れしく呼ぶことは出来るでしょうか。なかなかの度胸が必要でしょう。

そもそも、愛称というのは友達とか馴染みの客になって初めて呼べるものではないでしょうか。

例えば、こんな感じじゃないでしょうか。

「いらっしやい！おい、元気ねえじゃねーか、どうしたあ？」

「いや、実は会社で大目玉食らっちゃってさ。参っちゃうよ。ハハ。」

「なんでえ。そんなことか。俺なんて母ちゃんにいつも大目玉食らっちゃってるさ。だったら俺のラーメン食って元気だせ。俺のラーメンはスタミナ満点だからな。」

「ハハ。ありがとう大ちゃん。じゃあ、大ちゃんラーメン大盛りで。」

「はいよ。大ちゃんラーメン大盛り一丁!」

いい話ですね。やっぱり僕には○ちゃんは敷居が高すぎます。せめて○さんぐらいにして頂けないでしょうか。お店の配慮を期待しています。

とまあ、散々言ってきましたが、僕自身けっこう自分の作った料理に名前を付けちゃったりしています。今日の昼食には『真也スペシャル』とか付けちゃって。本当恥ずかしいかぎりです。でも付けちゃうんですよね何故か。

だから、皆さんもメニューの名前とは上手に付き合っていていきましようね。

長々とへりくつ失礼しました。また、いつかお会いできたらお会いしましょう。失礼します。

その1 メニューの名前について思うこと（後書き）

僕のへりくつを御覧頂き有難うございます。評価や感想等頂けたら有り難いです。

その2 県の名産品について思うこと

先日、ある方と初めてお話する機会があったんですが、その時に感じたことをお話したいと思います。まあ、その『感じたこと』って言うのはお互いの自己紹介の際のことなんですけどね。

皆さんは初めて会った方とどんな話をしますか。実は私は、初めて会った人と話すってことがかなり苦手なんです。第一印象を悪くしてしまう自信は、100%あるっていうくらい苦手なんです。

だからその日もはつきりいって苦痛でしたよ。相手の方は自分よりも2倍近く年上で、地位も断然上で、そのくせ私に対してさん付けで、しかも敬語で話してきて……。これ以上僕を苦しめるんですかって思っちゃいますよね。しかも、相手の方も自分から話そうとしない。ああもう。なんてたちが悪いんでしょう。

だから、必死で話題を探しましたよ。でも思いつかないんですよ。自分の心の引き出しにパンツ一枚すら入っていないんですよ。

しばらくの重苦しい沈黙の後、しょうがないんで本日2回目の自己紹介をすることにしました。しょうがないでしょ、話題がないんだから。

「すみません。改めて挨拶させて頂きます。〇〇と言います。よろしく願います。」

「まあ、ご丁寧にありがとうございます。ご出身はどちらになれるですか。」

おお、まさかの食い付き!!!この機会を逃すわけにはいきません。

「えっ、あつ、はい。茨城です。」

「ああ、茨城ですか。私は東京なんですよ。いいところですよ、茨城って。」

「そうですね。でも何にもないですよ。自分が住んでる地域は田舎なんです。」

もう、茨城を『いばらぎ』って呼んでることなんかこの時ばかりは気にしていられません。流れを乱すわけにはいかないんです。まあ、（ ）付けで表記しているくらい本当は気にしているんですが。皆さん、茨城は『いばらぎ』です。間違えないでくださいね。

「へえ、そうですねですか。水戸のほうとかは私が行ったときには賑わっていたようでしたけどね。」

「水戸は賑わっていると思いますよ。」

「そうですねですか。そう。茨城ご出身なんですか。ってことは、毎日朝は納豆を召し上がりたりなさるんですか。」

出ました。『茨城人』毎日納豆を食べる人』イメージ。まあ、仕方ないんです。茨城人は納豆と水戸黄門と霞が浦のイメージからの脱却は不可能なんです。それが茨城人としての宿命なんです。嵯峨なんです。

まあ、そう言っている私ですが実際に納豆をよく食べるので、正直にこう答えました。

「ええ、まあ週に3、4回くらいですかね。」

「そうですね。まあそうですね。ねえ。やっぱりねえ。」

なんですか。この満足してます態度丸見えの返答は。これで、この方には『茨城人は納豆好きな人種』というイメージが完全に付いてしまったことでしょう。

言っておきますけど悪いのは私ではないですよ。強いて言えば、週3で食べたくなる納豆を開発した日本文化が悪いのです。

まあ、だからと言って、納豆がないと私の朝が困ります。これは茨城人としての意見でもあり、納豆のある日本文化を愛する日本人

としての意見です。

その後も、その方からこう質問されました。

「朝に納豆はやっぱり基本なんですね。ってことは、おやつにはやっぱり甘納豆を召し上がるんですか。」

滅多に食べませんよ、はつきり言って。

と言うか、甘納豆ってそんなに頻繁に食べるものなのでしょうか。私にとっての甘納豆は、おばあちゃんの家のお茶菓子を入れる箱の中でピーナッツや海苔煎や氷砂糖等と一緒に入っているものというイメージがあります。

そんなどこか懐かしい感じのするものを、茨城人だからといって毎度おやつに食べるのでしょうか。もつと茨城県を主張するのなら、毎度おやつにMAXコーヒーを飲みながら、甘納豆を食べるのでしょうか。そう言われれば、そうではないと思いませんか。

第一、県の名産のお菓子がその県民のおやつ定番になっているかと言えば、そうではないと考えられます。

京都の八橋、鎌倉の鳩サブレ、東京の東京バナナ、北海道のジンギスカンキャラメル等のような関係のように、茨城にとっての甘納豆も県民とはある程度の距離をとったお菓子なのではないでしょうか。

その方は、そんなことを考えている私を尻目に10分ほどお話を続けられまして、東京へとお帰りになりました。

あの方は一体私に対して何を話しに、わざわざ茨城まで足を運んだのでしょうか。今になって考えても、私にはよく分かりません。

とまあ、ここまで散々言ってきましたが、私自身、小学生の頃は

『北海道の人は毎日カニやイクラを食べられていいなあ』と本気で羨ましがっていました。

今更になって考えてみれば、そんなわけはないんですけどね。カニやイクラにも匂ってものがありますし。それに、毎日食べてたとしたら北海道の人はどれだけリッチなんだってなりますよね。痛風もひどそうです。

皆さんも県の名産品とはうまく付き合っていきましょう。

長々とへりくつ失礼しました。またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その2 県の名産品について思うこと（後書き）

御覧頂き有難うございます。評価、感想等を頂けたら非常に嬉しいです。

その3 食べ物の食べ方について思うこと

ときどき自分自身に対して思うことなのですが、最近食べ物に対してのチャレンジ精神が薄れてきている気がします。いきなり、こいつは何言ってるんだと思われるかも知れませんが、これは本当に事実なのです。

ここで言うチャレンジ精神とは、いわゆる『この食べ物に合う新たな食べ方の発見』です。

昔からそうなのですが、私はかなりのひねくれもので、人が『〇〇は〇〇だ』と断言するものにはついつい反論したくなっちゃうんです。本当に嫌な性格です。そんなの自分でも十分理解しています。だから、他人からソースや醤油とかを勝手に自分の料理にかけるると少しばかりイラツとするのです。

そもそも、誰がその料理に、例えばエビフライに、誰がエビフライにソースが合うと決めたのでしょうか。タルタルソースや醤油やマヨネーズだって合うし、はっきり言えばそのままだっておいしいわけじゃないですか。

それを、昔からソースが合うと言われているからと何も考えずにソースをかけてしまったり、お弁当に『そんなにいらんだろ』という量のソースを同封してしまうのは、近年問題になっている『殻を破れない人間』に通ずるのではないのでしょうか。

まあ、そんなことを言っている私ですが、何も考えずにとんかつにソースをかけたりにしているんですよね。全くもって殻を破れていません。大人になってしまったんですね。嬉しいような、悲しいような。

皆さんも、自分の味を探求してみてください。私もちよいちよいやっていこうと思います。

ただ、一つだけ助言を。まあ、私の舌で感じたことなんで、そんなに信憑性はないとは思いますが。

お刺身に、マーマレードは結構キツイです。

長々とへりくつ失礼しました。またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼しました。

その3 食べ物の食べ方について思うこと（後書き）

御覧頂き有難うございます。評価、感想など頂けると嬉しいです。

その4 季節のテンションについて思うこと

最近急に寒くなってきました。僕は寒いのが嫌いなんで本当につらい日々がやってきてしまいました。

寒いのが嫌いだからといって、別に暑いのが好きってわけでもありません。暑いのも嫌いです。キツパリと嫌いです。でも、『暑い』よりは『寒い』の方が断然嫌いです。

その違いを僕自身に問うのであれば、それは『テンション』の違いです。

夏の暑さはテンションが上がります。

「暑い！あー、暑い！！もー暑い！！あーくそ、もー、ちよつとあーもうやだ！！暑い！暑いよー。暑いよお。………しかたねえ！！どっか出掛けるか！！」

これが夏の暑さの時の『テンション』です。

上がってますね。はい、確かに上がってますね。完璧に、ほぼ完璧に上がってますね。

これに比べて冬はどうでしょう。冬は、夏とは真逆でテンションは下がります。

「寒い……。あー寒い……。もー寒い。……あーくそ。もー、ちよつと……。あーもうやだ。寒い。寒いよー。寒いよお。………しかたねえ。……もう寝よ。」

これが冬の寒さの『テンション』です。

下がってますね。いやあーはい、確かに下がってますね。完璧に、ほぼ完璧に下がってますね。というより、がた落ちですね。夏の暑さの時より長い文章で、かなりのマイナス思考。これは『冬＝テン

シヨン低い時期』にはば確定ですね。

皆さんも、これからの寒い時期、自分のテンシヨンには気を遣っていきましょね。

とりあえず僕は当分の間、自動販売機の『あつたか〜い』のコーンスープで寒さを防いで、テンシヨンを維持します。まあそういつても、僕のいつものテンシヨンは一般の方の文化の日のテンシヨンとほぼ同じくらいなんですけどね。

長々とへりくつ失礼しました。またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その4 季節のテンションについて思うこと(後書き)

御覧頂き有難うございます。評価、感想等頂けると嬉しいです。

その5 大人になる瞬間について思うこと

人間とは日々何かと戦い、日々何かを経験し、日々何かを学び、日々何かを得て、日々少しづつ成長していく、未完の生物だと思えます。そしてその成長のなかで、人間はいつしか『子供』という範囲から脱却し、『大人』と呼ばれる範囲へと入っていくのです。

すみません。偉そうな書き方をして。別に哲学とかそういうことを言うつもりは全くありません。大丈夫です。ここからいつもの調子に戻ります。

つまり、僕が何を書きたいかということ、大人になるという瞬間はいつなのかということです。

世間では一般的に成人式を大人への通過儀礼としている感じがしています。お酒やタバコをコンビニの裏とか、学校の屋上とかで隠れて楽しむ必要がなくなるのも、この儀礼の後からですから、これも大人になる瞬間の一つであると思います。

でも、僕は大人になるという瞬間はもっと自分の生活に密着しているものだと思います。例えば挙げるなら下のようなものではないでしょうか。

一人で外食することができたとき。

レンタルビデオ店で堂々とカーテンの向こう側に入って、ちゃんと吟味して選んで、他のビデオでカモフラージュすることなしに、男性店員であろうと女性店員であろうと、なんてことなしに、スムーズに借りることができたとき。

スパゲッティにナポリタンとミートソースの味以外があることを知ったとき。

誕生日の夜を家族以外の人に祝ってもらったとき。

学校のトイレで、大きい方することに恥ずかしさや罪悪感を感じなくなったとき。

お寿司を『やっぱり、わさびあつての寿司だよなあ。』と感じることができたとき。

上野駅で戸惑わず乗り換えができたとき。

コーヒートのブラックをおいしく頂けたとき。

パンツをブリーフからトランクスに自分の意志で変える、若しくは自分の意志でブリーフを履き続けることを決めたとき。

このように、人によっては様々な大人になるという瞬間が存在すると思います。

まあ、僕自身が大人なのかといわれれば、多分まだまだ子供なのでしょうけど。

少なくとも、上に挙げた大人になる瞬間の2番目と7番目と8番目はまだ達成できていませんからね。

それでは最後に、もう一つの大人になる瞬間を挙げて、今回のへりくつは終わらせて頂きたいと思います。皆さんも自分なりの大人を目指してみてくださいね。

学校の給食のご飯と味噌汁と牛乳の組み合わせに、必要以上の違和感を感じたとき。

長々とへりくつ失礼しました。またお会いできたらお会いしましょう。失礼します。

その5 大人になる瞬間について思うこと（後書き）

御覧頂きありがとうございます。評価、感想など頂けたら嬉しいです。

その6 進化について思うこと

生物は生き延びて子孫を繁栄させるために、自分達の生活環境に合わせて長い年月をかけて進化をしてきた、というようなことをいつか聞いた記憶がどこかにあります。

と、いうことは、私たち人間もいつかは新たな進化をするのでしょうか。ちよつと考えてみましょう。

多分人間が今後大きな進化を遂げるとしたら、やはり地球温暖化が大きな要因となるのではないのでしょうか。

地球温暖化が進むと、地球が暑くなります。そうすると、人間は暑さに負けないような進化を遂げるはずです。暑さに負けない…。だとすると、砂漠に住む生物に似てくるのでしょうか。砂漠に住む哺乳類で、暑さに負けない…。

…ラクダです。やはり、ラクダです。誰が何と言おうと、ラクダです。ラクダのように進化するのではないのでしょうか。

でも、それでは困ることがあります。ラクダのように進化したら、多分ルックス的には残念な結果となってしまうでしょう。そしたら、『イケメン』は死語となってしまうでしょう。コンテストも激減することでしょう。

なにより、僕はラクダのように進化したくありません。

また、地球温暖化が進むと、北極だか南極だかの氷が溶けて水面が上昇するみたいな話を聞いたことがあります。そうすると、人間は泳ぎが得意になるように進化を遂げるはずで、泳ぎが得意…。だとすると、海や川に住む生物に似てくるのでしょうか。海や川に住む哺乳類で、泳ぎが得意…。

… カツパです。やはり、カツパです。一瞬クジラとイルカが頭をよぎりましたが、誰が何と言おうと、カツパです。カツパのように進化するのではないでしょうか。

でも、それでは困ることがあります。カツパのように進化したら、多分キュウリが好物になるでしょう。そうなると、食物の自給率が低い日本では、カツパのように進化した人間は生活することはできません。

なにより、僕はカツパのように進化したくありません。キュウリだってそんなに好きなわけではありません。

それでは、ラクダやカツパのように進化しないようにするにはどうしたらいいか。それはやはり地球温暖化を止めるしかありません。皆さんも、地球温暖化についてちょっと考えてみましょうね。

長々とへりくつ失礼しました。またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その6 進化について思うこと（後書き）

御覧頂きありがとうございます。感想や評価を頂けると、とっても嬉しいです。

その7 ダイエットについて思うこと

本当にどうでもいい話なんです、先日母親がついにバナナを買ってきて、僕にこう宣言しました。

「お母さん、今回は本気だからね。」

そうです。ダイエットです。

早朝ジョギング、寒天、納豆、水を入れる軽いダンベル、レコーディング、ビリー、エドはるみ、鍋、サウナスーツ、ヨガ、家事をしながらでもできる3分くらいのエクササイズ、腹をありえないくらい振動させるベルトみたいな機械、玄米と何種類かの野菜でできたモソモソとした食感のビスケット…。

どれも長続きせず、時には一回試しただけでやめてしまうような母親が、ついに新ダイエットに挑戦です。まあ、多分これも長続きしないような気がします。

そもそも、何でもここまでダイエットに関するものって爆発的ヒットを飛ばすのでしょうか。

例えば挙げるならば、寒天とか納豆とか今回のバナナですかね。まあ、納豆はあれかも知れませんが。これらの商品って、その効能が発見されて、メディアに取り上げられた翌日から突然市場から姿を消しましたよね。まるでオイルショックのときのトイレットペーパーみたいに。

寒天や納豆やバナナがあればあれよあれよと減っていく。スーパーの店長さんからしてみればガッツポーズものですよ。

でも、多分寒天からしてみればびっくりですよ。

日頃は多分こんな話をしていたに違いないでしょう。

「おい、増えるワカメの坊っちゃん。お前、ここに来てどれくらいになる?」

「えっ、俺ですか?そうですねー。2カ月くらいですかねー。」

「ああ!?2カ月?甘いねえー。まだまだ青二才だねえー。」

「ハッ!?じゃあ、偉そうな口きいてるあんたは、ここに来てどれくらいになるんですか!」

「あ?俺か?そうだなあ、俺はー。んー。確か1つてとこかなあ。」

「ハ?1カ月ですか?そんなくせに偉そうな口を叩いてんじゃねえよ!」

「…だよ。」

「ハ?もつと大きい声出さねえと聞こえねえよ!寒天じじい!!」

「…年だよ。」

「…えっ?も、もしかしてあんた…。」

「1年だよ。」

「い、1年!?あつ、あ…。」

「ねえ、増えるワカメのお兄さん。これからどうかよろしくお願いますねえ。まずは、そのふてぶてしい態度をご講義願いますかねえ。」

「ひっ!す、すみませんでした!や、やめてください。や、…ぎぎやあー!…!」

…いやあ。

恐いです。恐すぎます。

多分長年のご足労が寒天さんをこんなにも変えてしまったのでしよう。

でも、そんな寒天さんにもついに光が射したんです。

そう、あの一大ブームを巻き起こした『寒天ダイエツト』です。いままでスーパーの隅っこに追いやられていたベテランが、ついに店頭のお立ち台に上り詰めるときが来たんです。

多分こんな感じの会話がなされていたんでしょう。

「みなさん、おはようございます！この度、こちらの〇〇スーパーに入店させて頂きました、寒天です！まだ右も左も分からぬ若造ですが、どうぞよろしくお願いします！」

「ケツ、よしてくれよ寒天さん。あんたみたいなスーパースターが俺等なんかが頭下げないでくださいよ。」

「そ、そんな事言わないで下さい。僕はあなたの活躍に憧れてこの店に入店したんです。」

「ふっ、よしてくれよ。俺の活躍なんざ、夏のシーズンで終わりよ。今の時期なんて温麺になるしか能のない、しがないただの素麺よ。」

「そ、そんな…。」

「ふっ、意外そうな顔だなあ。だがなあ坊主。俺は逃げるわけじゃあないぜ。来年の夏にはまた主役に返り咲いてみせようじゃあねえか。それまでに腕を磨くしかねえんだよ。」

「…。」

「ケツ、熱く語っちゃったようだなあ。おっと、寒天さんよ。もうご指名らしいぜ。」

「えっ…、あっ、はい。すみません、お先失礼します。」

「…おい、坊主。」

「あっ、はい。」

「…頑張れよ。」

「あ、ありがとうございます！！素麺さんと話せて、俺、本当に俺、光栄でした！俺、頑張ります！素麺さんみたいに頑張ります！」

本当にありがとうございます！！」

「ふっ、俺も、まだまだ頑張らなくちゃなあ…。」

…いやあ。

渋いです。

渋すぎます。

俺も素麺さんみたいな大人になりたいです。

あれっ、ところでこれって何の話でしたっけ？

そうそう、ダイエットの話です。

上で紹介したように、寒天さんの立場は劇的に変化しました。それで、今はどうかといえば、皆さん承知の通り、またまた苦労人のベテランさんに逆戻りです。まるで、どこかの一発屋芸人さんみたいな人生ですね。大変な人生です。

そもそも、そんな人生を寒天さんや芸人さん達に味あわせていいのでしょうか。

というか、テレビ業界のサイクルは早すぎます。

元々力のある芸人さんなのに、出る番組、出る番組、同じようなネタばかりやらせて、飽きたらポイですか！？

そりゃあ、飽きるでしょうよ。同じようなネタばかりじゃ。

じゃあ、何ですか？あなた方は、毎晩毎晩ヒレステーキを召し上がって飽きないのですか！？

ヒレステーキは1年に1、2回食べるからこそ、ヒレステーキなんです。そんな有り難いヒレステーキを毎晩毎晩召し上がったら、罰が当たりますよ。胃もたれだつて起きるでしょう。

だからこそ、ヒレステーキは年に1、2回がベストですし、それくらいが財布にもやさしいんです。

すみません。話がだいぶそれましたね。話を戻します。

つまり、僕が何を言いたいかと言いますと、『一発屋にならないようにダイエットを継続して頂きたい』ということなんです。

寒天は別として、バナナと納豆は、僕にとって好物の1つに分類されます。

それが、ダイエットによって店頭から消えて、お前どこのメーカーだよってという商品までが登場したりするんです。

そんな、ダイエットとは関係なく、好きで食べている人から食物を奪うんですから、そういったダイエットをなさる方には、是が非にでも成功して頂きたいのです。痩せて頂きたいのです。真浦塚真也はダイエットをなさる方を応援します！

えっ？あなたの母親はどうなったって？

あー、多分ダメですね。

だって、食後にバナナを食べてるだけですもん。ただのデザートじゃねえかよってね。どうやら、趣旨をあんまり理解していないようです。

皆さんも、自分に合った健康法を進めていきましょうね。

長々とへりくつ失礼いたしました。またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その7 ダイエットについて思うこと（後書き）

御覧頂きありがとうございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その8 「最近の子供は…」について思うこと

最近、やたらめったら聞く言葉。

居酒屋や電車の中、はたまたテレビにむかって、ちよつと疲れ気味の大人の方々が、散々愚痴や不満を吐いた後、とりあえずいう言葉。

「最近の子供は…。」

最近の子供は、キレイやすい。

最近の子供は、態度がデカイ。

最近の子供は、礼儀がなっていない。

最近の子供は、努力を知らない。

最近の子供は、まとまりがない。

最近の子供は…。

まあ、後につづく言葉は悪いことばかりですよ。

でも、どうなんでしょう？

そんなに最近の子供ってだめなんですかね？

最近の子供の僕から言わせて頂きますと、そんなに変わらない気もしますけどね。

キレイやすいのは今も昔のヤンキーも変わらないだろうし。肩がぶつかっただけで、『お前、何中だよ！？』で喧嘩ですよ？中学関係ないでしょう、そんなに。

礼儀を知らないのは、成人式で大暴れしたり、挨拶をできない今も、卒業式でお礼参りしてた昔もそんなに変わらないだろうし。

まとまりがないのは、学級崩壊しちゃったり集会にならないくらい喋ってる子供と、保護者会で先生の話を聞かないで芸能人のスキヤンダルの話にはなを咲かせている大人や、テレビの特番なんかで日本の未来について話し合っても、怒鳴りあうだけの討論して、訳の分からないところで、何でこの討論に参加しているのかよく分からない芸人さんが訳の分からないボケをかまして、なんか皆が爆笑して、司会者が『とにかく頑張るしかないんですね。』なんて勝手にまとめちゃって、2時間ちよつとかけて『頑張りましょう』が答えですか、みたいなことをしている大人ともそんなに変わらないだろうし。

結局のところ、そんなに変わらないんですね。

昔から、ずーっと昔から、『最近の子供は…』なんて言葉は、一種の通過儀礼みたいに存在していた気がするんですね。

だから、どっちもどっちです。

電車内で大声で喋ってる子供も、仕事の電話だからとか言い訳して、電車内で携帯で話している大人もどっちもどっち。

ガムや唾をそこらじゅうに吐く子供も、タバコを歩きながら吸う大人もどっちもどっち。

学校なんか行っても意味ないしって言って昼間街をふらつく子供も、時代が悪い、社会が悪い、上司が悪いんだと言って酒に溺れる大人もどっちもどっち。

まあだからこそ、どっちもどっちで変わらなくちゃいけないんで

すけどね。

長々とへりくつつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その8 「最近の子供は…」について思うこと(後書き)

御覧頂き有難うございます。感想・評価など頂けたらうれしいです。

その9 サンタさんについて思うこと

12月の

「師走」という時期は何かと忙しい時期で、みんなバタバタしていませんよね。

中でも、あの方は目も回るくらいの忙しさでしょうね。日本のサラリーマンもびっくりなくらいの労働時間でしょう。

いや、M 1チャンピオンのあの2組じゃないです。そりゃ、これからバンバンテレビに出るとは思いますが。

いや、ゲーム屋さんや飲食店のアルバイトの人ではないです。そりゃ、この時期に休ませてくれなんて言ったら、店長に露骨にいやな顔をされるでしょうけど。

サンタですよ。サン・タ。あの、60歳か70歳かのお祝いみたいな赤い服着て、仙人みたいな白い髭をたくわえた、ぷくぷくのメタボで、同じくらいぷくぷく太った袋を担いで、鼻炎なのか酒焼けなのか分からないけど赤い鼻をしたトナカイをつれた外国のおじいさんですよ。

でも、よく考えるとサンタさんって、かなりのお人好しか偉い人かビルゲイツなみの資産家か、とにかくチャリティー精神あふれた『良いおじいさん』ですよ。

だって、世界中の子供たちの要望を聞き入れて、わざわざ遠くのフィンランドから、トナカイの引いたソリという不便な交通手段で、真夜中の寒い時に、自分の体型も考えずに頑張って煙突から入って、

靴下というあんなに限られたスペースに上手くプレゼントを入れて、子供の寝顔を見ることがもなく、またすぐに次の現場ですよ。

ノーベル平和賞もんですよ。サンタさんの行為は。

だから、子供たちもサンタさんを尊敬しなくちゃいけないと思います。多少自分が思っていたプレゼントと違って、目をつぶらなくちゃいけないんです。

だって、日本だけを配っている新聞や手紙や宅配便だって、間違って送られてくることもあるんですよ。

だから、世界中の子供たちにプレゼントを配っているサンタがプレゼントを間違ってたって仕方ないじゃないですか。

これは、あくまで僕の意見です。

これは、あくまでプレゼントを間違ってくばられたことが2、3回ある僕の意見です。

とにかく、みなさんもクリスマスを楽しんで過ごしましょうね。

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その9 サンタさんについて思うこと(後書き)

御覧頂き有難うございます。

その10 『その10』について思うこと

早いもので、ついに『へりくつエッセイ』も『その10』に突入です。

飽きやすい自分が、こんなに続くとは。

やりました。やってやりましたよ。快拳です。本当に快拳です。カレーうどんの大盛りを男らしく食べて、Tシャツが洗いたてみたいに真っ白だった時ぐらいの達成感です。言い換えれば、カルピスを、甘ったるくもなく、貧乏臭く薄くもなく、ちょうど良い優しい味に作れたみたいなものでしょうか。

自分でも自分を褒めてやりたくなります。だって、誰も褒めてくれないですもん。

だから褒めてあげるんですよ、自分を。

え？

ええ。親バカみたいにめちやくちやに褒めてやりますよ。こんなふうに。

よしよし。お前えらいなあー。よくやったなあー。ああー、よしよし。かわいいなあー。ああー、よしよし。よしよしー。

よしよしー。んー。もつとがんばりなよおー。ああー、よしよし。良い子だあー。ああー、よしよし。

気分はまるで、動物を（確かライオンだったかな）可愛がるムツゴロウさんです。

初めまして、真浦塚ムツゴロウです。

…調子乗りました。すいません。

本当に、これくらいで調子乗っちゃだめですよ。中には連載を100回以上続けている小説家になろうの小説家さんもいますもん

ね。まあ、読んだことないんで、いるかどうかも分からないですけど。

まあ、とにかく。僕が言いたいことは、こういうことです。

これからも、『へりくつエッセイ』をよろしくお願いします。

とりあえず今日は、駅で買った、こがしみたらし団子と今まで見たことがなかったどっかのメーカーの炭酸飲料で、細々と祝宴を上げたいと思います。

長々と、へりくつ失礼しました。

またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その10 『その10』について思うこと（後書き）

御覧頂きありがとうございます。評価、感想等頂けるとすごく嬉しいです。

その11 ストレス解消法について思うこと

最近、『現代人はストレスに弱くなった』とよく聞きます。まあ、そう言っている方自身も、少なからず現代人の分類に入っているので、何とも信憑性に欠ける気もしますけど。

と言うより、僕が思うに、現代人は、『ストレスに弱くなった』のではなくて、『ストレスを解消できていない』のではないのでしょうか。まあ、それも現代人の言っていることなんで、信憑性は全く無いですけど。

まあ、とにかく。現代人はストレスの解消法をいち早く見つけなくてはいけないんです。信憑性なんてことをウダウダ言っていたら、このエッセイは成り立たないんです。『へりくつ』なんですから。ええ。開き直っていきましよう。

ストレスは、いわば心の病です。僕も患者の一人です。ですので、ここからは僕自身のストレス解消法について考えていきたいと思えます。

まず、お酒なんてどうでしょう。金曜の夜、これでストレスを解消している方も多いのではないのでしょうか。気の合う仲間とビールをグイ。いやあ、いかにも楽しそうです。

…あつ。
無理ですね…。

だって、僕、お酒はめっちゃ弱いですもん。カルピスサワー2杯で記憶が飛びます。愚痴を吐き出す前に、違うものを吐き出してしまいそうです。

だから、お酒ではストレス解消はできませんね。

じゃあ、タバコはどうでしょう。ホッと一息、くわえタバコで、ストレスも一緒に煙にまく。なんか、渋くてかっこいいじゃないで

すか。

…あつ。

無理ですね…。

だって、所詮、煙ですよ。いわば、富士山の空気の缶詰の、お手軽に手に入るバージョンみたいなもんですよ。僕は、煙に2、300円もかけたくないですし、かけるだけのお金も持ち合わせていません。僕のお財布は、毎年、大不況です。

だから、タバコではストレス解消はできませんね。

うーん。じゃあ、カラオケなんかどうでしょう。日頃のイライラを大声でシャウト。はたまた、泣きのバラードで心をホロリ。いいじゃないですか。楽しそうじゃないですか。

…あつ。

無理ですね…。

だって、僕、音痴ですもん。そのくせ、採点は大好きですもん。歌えば歌うほど、心が傷つきます。

だから、カラオケでストレス解消はできませんね。

もう！じゃあ、何がいいんですか！？はつきりしろよ、男だろ！
喧嘩は？

…いや。痛いのが嫌いだし。それに、勝てないし。

じゃあ、スポーツは？ボクシングとかサツカーとか。

…いや。僕、運動音痴だし。

ああ！つたく。じゃあ、万引きとかしてみれば？

…いや。勇気が無い。

…じゃあ、もう仕方がないから、ドラックにでも手を出してみたら？

…いや。幻覚で虫とか見えたら…。僕、虫大嫌いだし。

…。

いやあ。

決まりませんね。

自分に対して腹が立ってきますね。ほら、また新たなストレスが発生です。

とりあえず、この場合は、ストレスと戦う人の為に開発されたいチヨコレートでも食べて、なんとか落ち着こうと思います。

皆さんも、ストレスとは仲良く付き合っていて下さいね。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その11 ストレス解消法について思うこと（後書き）

御覧頂きありがとうございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その12 振る飲み物について思うこと

いやあ、うかつにもやってしまいました。

まさか、この年になつて、やってしまうとは。人生での経験がまったく役に立っていませんね。まったく、僕には学習という能力が備わっていないのか。まったくもって、恥ずかしいかぎりです。

え？何がそんなに恥ずかしかったかですって？

またまたあー。冬の時期に、恥ずかしいことって言ったら、これが、スケート場で派手に転んだかの、どっちかしかないでしょうに。まあ、もうすでに、題名で発表しちゃってるんですけどね。

そうです。

僕はなんと、粒入りのコーンスープを、こともあるうちに、振らずに開けてしまったんです。

ああ、なんとという失態。よりもよって、毎年お世話になってる、コーンスープでこのような不祥事を起こしてしまうとは。

何気なく缶の裏の栄養表示とか保存方法とかが書いてある欄の、『よく振ってお飲みください』を見つけてしまった時の衝撃といつたら。

もうね。ああ、だめだ。言葉に表せません。

でも、そのことに気付いた時には、もう後の祭りです。

一応、振ってみようとは試みますが、蓋が開いてるので、こぼれるんじゃないかという恐怖心が頭をよぎり、結局、飲みおわった後に、缶のお尻を叩いて、コーンを出すというなんとも情けない姿をさらしてしまいました。

しかも、その時も、歯に缶が当たるんじゃないかという、恐怖心に負けるへたれぶりなんかも披露しちゃって…。

そんなこんなで、粒入りのコーンの、ツブツブ満足度は45%程度しか味わえませんでした。まあ、普段もどんなに頑張っても、9

5%ぐらいしか味わえないんですけどね。

そもそも、あの『よく振ってお飲みください』の表示って、なんであんなに小さいのですかね。

あんな大事なことを、あんな隅っこに書くことはないと思うんです。もっと、全面に出した方がいいと思うんですけどね。

いっそのこと、名前に入れちゃうとか。例えばこんなふうに。

『フリフリコーンポタージュ 僕達コーンも残さず食べてね』

いいじゃないですか。分かりやすく。子供受けもいいんじゃないんですか？

『振って二の腕もお腹もすっきり！ 飲むヨーグルト カロリー

1/2 カルシウム増量中』

いいじゃないですか。ダイエット効果も期待できそうですよ。…あつ、でもちよつと長すぎますよね。

『振って、テンションも中身もアゲアゲ！ ○○サイダー』

いいじゃないですか。ノリがよくて。若者には受けそうです。…あつ、振ったら、中身は空っぽになっちゃいますね。確かにアゲアゲですけど。

うーん。そう考えると、題名だけに任せるのは難しいですね。

じゃあ、『よく振ってお飲みください』を見忘れたときのフォロワーを入れてみるってのはどうでしょう。そうすれば、『あー！振るの忘れた…』という、テンションの下がり方を経験しなくても済みますもんね。

例えば、野菜ジュースのラベルの表示を、こんな感じにしてみましたらどうでしょう。

『本製品は、よく振ってお飲みください。』

ただ、この「よく振ってお飲みください」ですが、これはあくまで、我が社の開発チームがよく振って飲んだほうが、味が均一になっ
ておいしいのではないかと考慮して、表記をさせて頂きました。

そのため、お客さまが振らないでお飲みになったからといって、
その行為が間違いというわけでは決してありません。むしろ、振らな
い方が、前半は薄味ですっきりと、後半は濃厚な野菜の風味を味わ
うという、2通りが楽しむこともできます。我が社の社員の中にも、
その飲み方をしている者もおります。

ですから、振ってお飲みになるか、振らないでお飲みになるかは、
お客さまのご自由でお楽しみください。』

まあ、ここまで書けば、振らないで飲んだとしても別にテンシヨ
ンも下がることはないでしょう。

ただ、自分で書いといてなんですが、この無駄に長い文章は一体
どのスペースに表記できるんでしょうか？もし一字も抜かさな
いで表記するとしたら、業務用のプラスチック容器か、一升瓶スタイル
じゃないと、まず無理でしょうね。

うーん。それじゃあ今のままが、もしかしたら一番ベストなの
かもしれませんね。あれ？結局、解決できませんでしたね。

皆さんも、振る飲み物とは仲良く共存していきましょね。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その12 振る飲み物について思うこと（後書き）

御覧頂きありがとうございます。評価・感想等頂けると、嬉しいで
す。

その13 趣味について思うこと

最近、『あなたの趣味は?』という質問をよくされるようになりました。そこでいつも、僕は、自分自身の趣味って、一体なんなんだろうなあーと考えてしまいます。

こういう質問って、答えようによっては、相手に与える印象も変わるように感じます。なるべくなら、相手に良い印象を与えたい。そう考えてしまうと、ずる賢い自分も、ちよっぴり存在してしまいます。では、どういったことを、『僕の趣味です』と答えればいいんでしょうか。ちよっと考えてみたいと思います。

例えば、僕が考える良い印象を与える趣味としては、サーフィンがあります。爽やかに汗を流しながら、真夏の海で、格好良く波に乗る。波。日焼けした筋肉質の肌。太陽。砂浜。カニ。パラソル。海の家。焼きそば。かき氷。ん〜。どれをとっても格好良い。まさにパーフェクト趣味、キングオブ趣味ですね。趣味の中の趣味、出てきましたね。

じゃあ、これを自分の趣味に置き換えてと。

いや、いやいやいや。無理です。あー、無理です。だって、僕、肌が真っ白ですもん。ネギみたいですもん。これで、趣味とか言ったら…。

質問人(以下質)

「あなたの趣味はなんですか?」

真浦塚(以下真)

「はい。僕の趣味は、サーフィンです。」

質

「…。えっと、どこらへんで泳いでいるんですか。」

真

「えっとー。家です。」

質

「は？」

真

「家です。」

質

「あつ、もしかして、丘サーファーですか？」

真

「いえ、家サーファーです。」

質

「い、家サーファーですか？」

真

「はい。家サーファーです。」

質

「あつ。だから、肌が真っ白なんですね。」

真

「そうです。」

質

「…。へえー。なるほどねー。」

「ごめんなさい。」

「ここまで書いていてなんですが、多分『どこらへんで泳いでいるんですか。』で心が折れると思います。『ごめんなさい。嘘です。』と言ってしまふと思います。」

「やっぱり、自分に嘘をつくのはいけませんね。人間、やっぱり正直者が一番です。趣味も正直に言っちゃいましょう。例えばこんなふうに。」

質

「あなたの趣味はなんですか？」

真

「はい。僕の趣味は、執筆作業です。」

質

「えっ？執筆作業ですか？」

真

「はい。携帯サイトで執筆作業をしています。」

質

「なるほど。どのようなものを執筆しているんですか？」

真

「へりくつです。」

質

「は？」

真

「へりくつです。へりくつエッセイです。」

質

「へ、へりくつエッセイですか？」

真

「はい。そうです。」

質

「…。えっと、それはどういったものですか？」

真

「ですから、へりくつエッセイです。」

質

「えっと。つまり、へりくつに対してのエッセイってことですか？」

真

「いえ。物事に対してへりくつを言うエッセイです。」

質

「あっ、じゃあ、へりくつエッセイというより、へりくつに関するエッセイってことですか？」

真

「そうです。」

質

「でも、あなた、さっき『へりくつエッセイです』って言いました

んでしたっけ？」

真

「言いました。」

質

「じゃあ、あなたはさっき、間違っただってことですか？」

真

「いえ。僕が言った『へりくつのエッセイ』は、限りなく『へりくつによるエッセイ』にちかい『へりくつのエッセイ』です。」

質

「それってへりくつですか？」

真

「そうですね。」

質

「…。」

「ごめんなさい。」

俺、そんなにひねくれてないです。自分でも分かってましたよ。

かなり無理があると。趣味でこんなに印象を悪くする必要はないと。

うーん。

案外、趣味って難しいですね。やっぱり、無難に読書と映画観賞にしておきます。あつ、言っておきますけど、本はちゃんと書店に行っただけでいいし、映画はちゃんと映画館に行っただけでいいから。だから、頼みますから、真浦塚真也は引きこもりの根暗野郎だなんて思わないでくださいね。

皆さんも、自分の趣味を楽しんでくださいね。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その13 趣味について思うこと（後書き）

御覧頂き有難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その14 血液型について思うこと

「A型なのに、雑だねえ。」

最近、よくこういった言葉をかけられます。

最近流行ってますよね、血液型での人間性。もうその人気といったら、数年前のポケットサイズのモンスターぐらいなものですよ。どこの本屋さんに行っても、大抵この関連の本は置いてありますし、テレビでもたくさん取り上げられたりしています。

でも、この血液型での人間性って、どれくらい信憑性があるんですかね。今回は、僕自身がA型ですので、A型の人間性について考えてみたいと思います。

まず、大雑把に考えてみますと、日本人の4分の1はA型ということになるですよ。ということは、日本人の4分の1が几帳面で、慎重ってことになるんですよ。

あれ？でも、それっておかしくないですか？

だったら、日本ってもっと綺麗になってますよね。だって4分の1がA型なんです。もし、ほかの4分の3がゴミとかポイツとしても、A型の人間性でチャツチャツと掃除できるんじゃないですかね。そしたら日本は、もっと綺麗で、衛生的で、外国の人に「オオー、ニホンツテ、キレイデスネエー、ワガクニデモミナライタイデース。」とかなると思うんですけど。まあ、それにはA型の人間性プラス思いやりの心もいるとは思いますが。

また、話は変わりますが、某有名な血液型の説明書には、A型の人間性についてこう書かれています。

『石橋を叩きすぎて割る』

いや、いやいやいや。

石橋を叩きすぎて割るって…。
もう一辺よく考えてみましょう。

…。

うーん。やっぱりおかしいですって。

だって、石橋ですよ。石でできた橋ですよ。いわば、コンクリートですよ。

割れるわけじゃないでしょう。いくらA型だからって。

叩きすぎて割れるって、どれだけの欠陥工事ですか。多分あれですよね。この石橋を作った人って、多分典型的なB型気質な人ですよね。

それとも、割った人がかなりの剛力とか。いやいや、ありえないって。真浦塚くん、アニメの見すぎですよって。

まあ、とにかく、石橋はそう簡単に割ることができるもんでもありませんって。

と、まあ、ぐだぐだと書いてきましたが、このように考えてくると、血液型での人間性って、そんなにあてにならないのかも知れませんね。

だから、皆さんも軽い気持ちで血液型での人間性を参考にしてみてはいかがでしょうか。

とりあえず僕は、いつも通りの、神経質で、そのくせやることは雑で、自己中心的思考で、へんなところが綺麗好きで、頑固で、おらかで、たまに天才肌を感じさせる、そんな男になってやろうと思います。目指せ、全DNA制覇！

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その14 血液型について思うこと(後書き)

御覧頂き有難うございます。評価・感想など頂けると嬉しいです。

その15 映画館のポップコーンについて思うこと

最近映画を観る機会があったので、全力で楽しみました。

爆発とか、格ゲーみたいなアクションとか、ギャグ漫画みたいなコメディとか、ドキュメンタリーみたいな感動とかを、あの大画面で、『さあ、見て御覧なさい。』みたいに観ることができる。いやあ、人間ってのはすごいもんを作ったもんです。

でも、そこでちょっと疑問に思ったことがあるんです。そう。題名に書いたとおり、『ポップコーン』です。

映画館とポップコーン。

誰も疑問に思わない、映画館では当たり前前の組み合わせです。いわば、ご飯と味噌汁、アリとキリギリス、リアクション芸人とおでん熊と鮭、ビールと枝豆、昔話の『太郎』と本当にお人好しの老夫婦と同じくらいのよくある、本当によくある、普通の、ごく普通の、『やっぱり、お前とじゃなきゃだめなんだ。』みたいな、最強の組み合わせ、らしいですよ。

でも、僕が思うに、映画館とポップコーンってそんなに合うもんですかね？

だって、よく考えてください。ポップコーンですよ。食べると『サクッ』と音がして、ほんのりと指に塩が残る、あのポップコーンですよ。

あー、映画って、『他のお客さまのご迷惑になりますので、上映中のおしゃべりはご遠慮ください。』じゃないですか。だったら、ポップコーンの『サクッ』って音は、もう致命傷じゃないですか。えっ？そんな小さい音なら気にならないって？

いやいや、いやいやいやいや。

だって、電車内で携帯いじってるだけで、サラリーマンとかOLさんとかにいやな顔されるときがあるんですよ。携帯のボタンを押す音でさえ気にする人がいるんですよ。まあ、もしかしたら、『携

帯ばっかりいじってんじゃねえーよ、最近のガキがあ。』的なこと
かも知れませんが。だったら、僕、まずいですね。だって今、電車
内ですもん。と、話がそれましたが。つまり、人によっては、ポ
ップコーンの音はまずいと思います。上映中にそんな音をさせたら
キレる人もいるかも知れませんか。0.2%くらい。

えっ？じゃあ、上映前に食べきりゃ良いだろって？

いやいや、いやいやいやいや。

だって、今のポップコーンって、ミニのポリバケツみたいな量入
ってませんか。そんなの一気に食べたなら、お腹壊しちゃいますよ。
ラストの良いところに、トイレに直行ですよ。まあ、運気は上がり
そうですけど。別な意味で。

だから、映画館ではポップコーン以外の食品を推してみるのほど
うでしょう。例えば、濡れ煎餅とか。湿気た煎餅とか。お茶に浸し
た煎餅とか。雨に濡れた煎餅とか。根っからのなよなよ煎餅とか。
温泉煎餅とか。

…。

と・に・か・く。皆さんも、映画館に合う食品で映画を楽しんで
みてはいかがでしょうか。ちなみに、僕のおすすめは、映画館では
何も食べないことです。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたら、あ会いしましょう。

失礼します。

その15 映画館のポップコーンについて思うこと(後書き)

御覧頂き有難うございます。評価・感想など頂けると嬉しいです。

その16 電車内のアナウンスについて思うこと

この前久しぶりに電車に乗ったら、強風の影響で、小一時間も遅れが生じました。まったくもつての不運です。アンラッキーです。でも僕、その日は正座ランキング、堂々の1位だったんですよ。しかも仕事運と恋愛運がMAXの。なのに朝のしよっぱなに、電車の遅れって…。お笑いで、笑いが起きないくらいのベタですよ。いや、強いて言えばベツタベタですよ。ハチミツたつぷりのパンケーキを食べた後の、幼稚園児のほっぺたぐらいのベツタベタ感ですよ。まあ、電車内で携帯小説書けるくらい、電車さんと濃密な時間を過ごしたってことから言えば、仕事運と恋愛運には恵まれてるってことですかね。はい、自他共に認める負け惜しみです。

とまあ、そんな中で僕が感じたのは、題名にあるとおり、『電車内のアナウンス』についてです。

電車内で流れる英語のアナウンスって妙にテンション高すぎやしませんか？

今回、僕が言いたいことはこういうことです。

前にも書いたとおり、僕が乗った電車は、強風の影響で小一時間遅れたわけです。ということは、電車のアナウンスからは駅員さんの謝罪の音が流れるわけです。つまりは、こういうふうに。

『次は終点〇〇です。この電車は〇〇・〇〇駅間での強風の影響で、〇〇分ほど遅れが出ております。本日は、お急ぎの方に大変なご迷惑をお掛けしました。申し訳ございませんでした。』

まあ、こう駅員さんに言われると、まあ仕方ないかな、って気になるんです。僕の機嫌がいい時なんかは、駅員さんが悪いんじゃない

いよ、悪いのは風と風なんかには負けちゃう電車さ、だから、駅員さんは謝る必要なんてないさ、なんて考えちゃうときもあります。まあ、謝罪の声の半分くらいは、駅員のオリジナル訛りで何て言うてるかよく分からないですけど。

しかし！そんな気分になったとき、あの、声が電車内に響き渡るのです。あの、若干陽気な、若者みたいな、手にフライドチキンとウイスキーを持つぐらいの陽気さではないとはしても、ホットドックとコーラくらいは持ってそうな、あの声。

『センキュー、ア、トラベリングなんちゃらアゲイン！』

うおい。明るすぎるだろう。て言うか、謝罪の言葉もないんかい。

ほら、ね。

なんか、若干イラツときませんか。なんだこいつとか思いませんか。『そんなところで落ち込んでないで、こっちで一緒に、サラおばさんお手製のラズベリーパイでも食べないか。』みたいなテンションはなんだと思いませんか。

えっ？思わない？

いや、いやいやいやいや。

思いますって。絶対に思いますって。

だって、言わば、一回謝ってただから別にいいでしょ思考ですよ。牛肉の賞味期限偽装で捕まった会社の社長が、『本当に申し訳ございません。明日からは豚肉専門店として頑張ります。』とか言ってるようなもんですよ。『パンが食べられないなら、クッキーを食べればいいじゃない。』と何ら代わりはないでしょうよ。

ほら、ちよつとイラツときたでしょ。電車のアナウンスと真浦塚真也のメンドクサイへりくつに。

いいんです。それでいいんです。だって、へりくつなんですもん。とか書いておきながら、実際、僕の心はナイーブハート。いやあ、

本当に申し訳ございません。メンドクサイ人間で。

とまあ、散々話はそれでしたが、つまり僕の提案としては、英語のアナウンスをなんか謝罪しなくちゃいけない時は、別の特別ロケーションバージョンを流すべきではないかということですね。それができなきゃ、電車一両に対して、演技に覚えのある英語をしゃべれる人を一緒に乗車させるとか。

まあ、とにかく皆さんも電車と仲良くしてみてはいかがでしょう。結構いいもんですよ、電車って。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その16 電車内のアナウンスについて思うこと（後書き）

御覧いただき有難うございます。評価・感想など頂けると嬉しいです。

その17 テレビの観客席のリアクションについて思うこと

ずっと前から気になっていたんですが、テレビ番組の観覧席のリアクションって、何であんなに揃っているんでしょうか。お笑い芸人が一発芸をやったら湧き出たように笑いが起こり、激安商品が発表されたら『ええー。安いー！』みたいな歓声が起こり、悲惨な事件や感動するドキュメンタリーではまるで不毛な大地のように静まり返り、冒頭で『子供のころに離婚して離れ離れになった父親に会いたい』みたいな題名を散々流したにもかかわらず、再現VTRで『なんと借金が原因で両親が離婚してしまっただんです』というナレーションが流れたとたんに、『そんな・・・』とか『ええー！』みたいな悲しさを表現している、あの観客席のリアクションは、何故あそこまで歩調を合わせる事ができるのでしょうか。

一般的に考えてみたら、すべての歩調が合うのって、なんとも不思議な気がします。だって、人間って一人ひとり違うわけじゃないですか。十人十色なわけじゃないですか。いろいろな感情を持っているからこそ、人間ってというのは、笑ったり、努力したり、人を愛したりできるのではないのでしょうか。なんか、すごいいいことを言ったような気がします。でも、この話には関係ないので、『真浦塚真也ってすごくない？』という感情はそつと僕の胸にしまっておきます。

つまり僕が言いたいのは、『リアクションがあんなに揃うのはおかしい』ということです。いくら、『番組を心から楽しみたい』という意識を観客席のお客さんが全員持っていたとしても、リアクションが全部揃うことはありません。だって、『日本を心からいい国にしたい』という意識を全員が持つて集まっている国会でも、大臣の方の発言に対するリアクションはバラバラですからね。中には寝たふりをして、『私はあなたの発言に対してなんかリアクションをとりませんよ』という高等なリアクションを取る議員の方

がいるとかいないとか。

そんな、人によってバラバラなリアクションが、テレビの中ではキツチリと、本当にキツチリと、日本のお人形の前髪みたいにキツチリと揃っているんです。それは何故か。考えられる理由はたった一つしか存在しません。

そう、観客席に座っているお客さんは、プロのリアクション集団だということです。もしくはセミプロ。それが、日頃からリアクションを研究している、なんかそんな感じの、リアクションの好きな一般の、すごい方たちみたいなの、まあそういう雰囲気の人たち、みたいなの。

もうそれしか考えられません。いや、8割がたそうでしょう。多分、テレビには映らない裏側ではこんな会話がされているに違いありません。

番組スタッフ

「はい。テープチェンジしますのでいったん休憩に入ります。」

……

A

「やっぱりおもしろいね○○テレビ。」

B

「だよね。こうやって芸能人を見れるなんて夢見たいよね。」

A

「本当。今日はちゃんと楽しまなくちゃ！」

C

「あなたたち、ちょっといいかしら。」

A B

「えっ？」

A

「な、何ですか？」

C
「さっきのあなたたちの行動を、私にちゃんと説明してほしいんだ
けど。」

A
「さっきの?」

B
「えっ? 私たち何かしましたっけ?」

C
「は? とぼけるんじゃないわよ!」

D
「ちょっと、C止めなさいよ。」

C
「何言ってるのよ! この子達がしたことあなた黙ってるっていうの
! ? Dはこの子達の行動を許せるっていうの! ?」

D
「違うわよ。許す許さないじゃなくて...。」

C
「もう! Dはちょっと黙ってて! あなたたちが分からないって言う
なら、私から言ってあげるわ。」

A B
「は、はあ。」

C
「あなたたち、さっきお笑い芸人の○が出てきた時、『キャー』
って歓声をあげたわよね。」

A B
「えっ? あっ、はい。」

C
「なんであんなことするの?」

A
「なんでって...。」

B

「だって、私もAもOの大ファンだし…。」

A

「それに出てきて早々、ネタをやってくれたし。」

B

「ね。あのネタ面白いもんね!」

A

「そう!私、何回見ても笑っちゃうもん。この前出たDVDも本当に面白いし。」

B

「えっ?Aもう買ったの!?いいなあ、今度私にも見せてよ。」

A

「いいよ。一緒に見よう。」

B

「本当!?やったあ。」

C

「ちょっと、あなたたち!私の話聞してるの!」

A B

「…すみません。」

C

「まったく…。」

A

「で、でも、なんで『キャー』って言っちゃいけないんですか?」

B

「そ、そうですね。私たち、ファンなんだから歓声をあげるの当たり前じゃないですか。」

C

「あなたたち、本当に何にも分かってないのね。」

A B

「えっ？」

C

「いい？ は『イケメン界のスペシャルゲスト』として登場したのよ。イケメンよ。イ・ケ・メ・ン。はどう？イケメン？イケメンじゃないでしょ。全然イケメンじゃないでしょ。つまり、は『イケメン界のスペシャルゲスト』ではないわよね？

じゃあ、私たちはどういうリアクションをすればいいか分かるでしょ？そう、『沈黙』よ。沈黙すればいいの。そしたらどうなる？一回考えてみる？じゃあ、やってみるわね。

ハイ！司会の が『なんと！今回はあのイケメンが会場にきてくれました！』と言いました。

ハイ！私たちのリアクション！『オオー！！』

が『でわ、登場していただきましょう！イケメン界のスペシャルゲストです！』と言いました。ドラムロールが流れました。観客席で私たちがざわめきます。

そして、スポットライトを浴びて が登場しました。ハイ！ここで『沈黙』！

がテンパります。必死に顔芸をします。ハイ！まだまだ『沈黙』！

そこに がやってきて、 に『俺の番組で何してくれてんねん！』っとツッコみました。ハイ！ここで観客席が大爆笑！

A B

「…。」

C

「どう！？これが正解でしょ！？これで も どちらもおいしじゃない。テレビの向こうで見ている人たちには、どちらも面白く見えるじゃない。」

A

「は、はあ。」

C

「ね？いわゆるこれが、私たちのリアクションの効果よ。なのに、あなたたちときたら…。」

A B

「…すいません。」

C

「いいのよ、もう。私も熱くなりすぎちゃったから。だけど、公開収録っていうのは、演者と番組スタッフと観客席の私たちが一丸となって、初めて存在するものなの。だから、私たち観客席も番組には精一杯協力しなくちゃならないの。」

確かに。確かに、は今人気があるわよ。私だって好きよ。ネタだってしっかりしてるし、べしやりもなかなかイケるしね。でもね、今この番組のなかでははにイジラれて初めて輝く存在なの。別に腕がないって言っているわけじゃないのよ。むしろ、その逆よ。腕があるからこそ、との絡みが実現できるのよ。確かに。確かに、そうよ。あなたたちがを応援したいって気持ちも分かるの。でもね。この絡みっていうのもには今後の為には絶対に必要になってくるものなのよ。だから、あなたたちが本当にの大ファンだっていうのなら、今日は心を鬼にして、に接してほしいの。それが、の為に、あなたたちの為にもなるんだから。」

A B

「…はい。」

D

「ほ、ほら、Cもういいでしょ。もうテープチェンジも終わるみたいよ。」

C

「あつ、本当ね。それじゃあ、あなたたち。後半もリアクション頑張りましたよね！！それじゃあ、失礼するわ。」

A B

「…。」

いやあ…。

面倒臭いですね。本当に面倒臭いですね。

だって、書いている僕が面倒臭いですもん。AとかBとか、英語の全角を使うのが本当に面倒臭い。まあ、なら使っなって話ですけど。

まあ、なにはともあれ、観客席でこんな会話がなされているとしたら、僕が観客席に座ることは二度とないでしょう。まあ、いくら応募しても観覧者に当選したことは一度もないんですけどね。

やっぱり、僕には家の茶の間でゴロゴロしながらテレビを見るのが性にあっているようです。

皆さんも、テレビは気軽に見てはいかがでしょうか。テレビって、なかなか面白いものですよ。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたら、お会いしましょう。
失礼します。

その17 テレビの観客席のリアクションについて思うこと（後書き）

御覧頂きありがとうございます。評価・感想など頂けると嬉しいです。

その18 栄養についてのうたい文句について思うこと

ふと気付いたことなのですが、飲料水のパッケージに書かれているうたい文句に、ついつい心を引かれている自分が心の中にちよいちよい登場してくるようになりました。やっぱり健康に気を遣うように僕の心が叫んでいるのですかね。全く心配性なんだから。まあそこが愛くるしいんですけどね。おっとこれ以上言っていると、自分大好き人間と勘違いされるんでこらで自粛しておきます。

でも、本当に最近増えましたよね、健康を匂わすうたい文句。なんなんでしょう、やっぱり健康ブームってやつなんですかね。ただ、僕はちよっと最近このうたい文句に、疑問を持ちはじめているんです。

例えば、野菜を使った飲料水のパッケージに書かれているこのうたい文句。

『これ一本で一日に必要な野菜を全部取れます!』

これすごくないですか!? たった一本で一日に必要な野菜を全部取れるんですよ。ただ野菜入ってるんだよってことじゃないですか。

でもそうすると、もしハンバーガと一緒に食べたらどうなるんでしょう。

だってその野菜を使った飲料水で、もう一日に必要な野菜を全部取れたわけじゃないですか。そしたら、ハンバーガの中に入っているレタスとかトマトの立場はどうなるんでしょう。やっぱり栄養素としては体には取り込まれないんでしょうか。それとも、そこはレタスやトマトを気遣って野菜を使った飲料水が9割程度の力しか発揮しないんでしょうか。

うーん。どうなんでしょう。でも多分僕たちの体の中ではほぼ毎

日、こういつた葛藤がなされているんでしょうね。なんかそれも野菜に気を遣わせて悪い気もしますが。

やっぱりバランスの取れた食事が体にも栄養素の方々にも一番やさしいんですかね。

皆さんもバランスの取れた食事で健康に気をつけてみたらいかがでしょうか。やっぱり食事っていいもんですよ。

それでは最後に僕が抱えている疑問をもう一つ発表して、今回は失礼させていただきます。

『これ一本でレモン〇〇〇個のビタミンC!』って商品を、飲み過ぎて『ビタミンC過剰摂取症候群』とか『スーパーオーバービタミン』とか『ビタミンインボディ』みたいな意味分からない病気にかかったりしないんでしょうか？

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その18 栄養についてのうたい文句について思うこと（後書き）

御覧頂き有難うございます。評価・感想など頂けたら嬉しいです。

その19 ハリネズミについて思うこと

最近、僕はどうしても疑問を持っていることがいるんです。まあ、題名で思いつきり言っちゃっているんですけどね。

そうです。僕が疑問を持っていることは、あの『ハリネズミ』についての事柄なんです。

ハリネズミはどっやって寝返りを打っているのか、と。

多分皆さんも人生の中で一回くらいは気にしたことがあると思います、この疑問に。

だってハリネズミって、名前の通り、『ハリ』の生えた『ネズミ』な訳じゃないですか。

そのネズミが寝るわけですよ。寝返りを打つわけですよ。ほら想像できたでしょ、ハリが地面に刺さってまるで浮いているように見えるハリネズミの姿が。

でも、今まで生きてきて、『ハリネズミのハリが地面に刺さって動けなくなってしまうた。』みたいなことを一回も聞いたことがないわけです。

ということは、もしかしたらハリネズミの『ハリ』は硬くない、もしかしたら『ハリ』ではないのではないのでしょうか。

そこで僕は散々考えた挙げ句、ある仮説を立ててみました。

ハリネズミは背中の中、つまり『背毛』が尋常な生え方をした毛深い生物で、それにワックスをつけてお洒落にきめている、カリスマ生物ではないだろうか、と。

こう考えると、ハリネズミのハリが地面に刺さるなんてことはないと考えられます。だって、寝るときにはシャンプーしてリンスし

てドライヤーで乾かしてしまうのだから、ハリはさらさらハリにな
っているはずですからね。

よし！これで僕の疑問は解決しました。やっぱりへりくつは何に
でも通用するらしいです。

皆さんも、日頃の困難や問題に、へりくつで挑んでみたらいかが
でしょうか。もしかしたら、知らず知らずの内に自分の物差しで考
えてしまっているだけなのかも知れませんかよ。

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その19 ハリネズミについて思うこと（後書き）

御覧頂き有難うございます。評価・感想など頂けたら嬉しいです。

その20 20回について思うこと

いやあなんだかんだで、この『へりくつエッセイ』もついに20回の更新に至りました。これも、皆さんが僕なんかが書いたこの作品を読んでくれて、さらには感想・評価をしていただいているおかげです。本当に有難うございます。

そこで、今回はお礼ということ、僕が密かに感じている野望をお話させて頂こうと思います。『えっ？野望なんて聞かされても…。それがお礼って…。』と思った方、それは本当に申し訳ありません。ただど…まあ…へりくつなんで…。そこはあえてスルーでいきましよう。

それでは、発表させて頂きます。僕の野望はこちらです！

『僕のへりくつを、いつか世界の理屈にする。』

これです。これが僕の野望です。へりくつをいつか理屈にする。なんてスケールの大きな話なんでしょう。多分無理でしょうね、自分で言っておいてなんですが。でも、野望ですからね。まあ、これくらい言わせて頂いてもバチは当たらないでしょう。

でも歴史的に見ると、こういったことは頻繁に起こってきたように考えられます。例えば、某有名な『地球は丸い』と言ったあの学者さん。あの時代にもしも僕が存在していたとしたら、『なあーに言ってるんだ。へりくつばっかり言いやがって。研究ばかりしてるから頭がおかしくなっちゃったんじゃないか。』と、自分のへりくつ具合を棚に上げて、ボロクソに言ってしまえそうです。でも、今ではその理論が世界の常識。いやあ某有名な学者さん、あんたは偉い！これこそ、へりくつが理論に変わったいい例でしょう。

だから、僕も最終的にはここを目指していこうと思います。ただ、時間はメチャクチャかかりそうです。でも、いいんです。あのピカ

ソだって死んだ後に評価され、絶賛されたんです。僕だってもしかしたら遅咲きタイプなのかも知れませんがね。もしかしたら何十年か先には、季節が与えるテンションの理論が学会で報告されたり、ハリネズミがリンスをしている瞬間がテレビで放映されているかも知れませんが。

と、まあ長々と書き綴ってきましたが、僕が最終的に言いたいことは、これからもへりくつエッセイをよろしく願いますということです。

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その20 20回について思うこと（後書き）

御覧頂き有難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その21 映画の宣伝文句について思うこと

突然ですが、皆さんは映画を観る基準ってどうやって決めていますか。友達から勧められてでしょうか。それとも、雑誌での紹介でしょうか。

いや、多分皆さんも僕と同じように、テレビや映画の冒頭で流れる宣伝映像で決めているんじゃないでしょうか。まあ『僕と同じように』って言う表現をするほど真浦塚真也はそんなに偉くはないんですけど。ただこの映画の宣伝映像、中にはちよつと観るのをためらう場合もあつたりするんです。例えば、こんな宣伝文句。

「全米が泣いた！あの最高のラブストーリーがついに日本上陸！」

最近よく目にしますよね、『〇〇が泣いた』っていう表現方法。世界が泣いた、日本中が泣いた、100万人が泣いた…。と、まあこんな感じでしょうか。いやあ、泣いてますね。泣きすぎですね。こんなんじゃ温暖化以前に海面が人の涙で上昇してしまいそうです。いや、今はそんなことはどうでもいいことなんかではないんですけど。ちゃんと環境のことは考えなければいけないんですけどね。

話を戻します。つまり僕が言いたいのは、この『〇〇が泣いた』って表現方法が、僕がその映画を観るのをためらってしまう原因になつているということなんです。なぜなら、もしも僕が泣かなかつたらどうしようかと考えてしまうからです。

だって、日本中が、全米が、世界が泣いているわけなんですよ。感動の嵐が吹き荒れているわけですよ。そんな状況で、もしも僕の瞳から一滴の涙も出なかつたら、『ああ、僕はなんて非情な人間なんだ。』って考えてしまうわけなんです。いや、これが笑いだつた

らしいですよ。『全米が笑った!』とかだったら、『やっぱり、笑いのセンスはお国柄なんだなあ。』って自分自身を無理矢理納得させることができますから。でも、泣っていうのは…。万国共通だろうし…。まあ、ウミガメはちよつと違うかもしれないけど…。

とまあ、長々と書き綴ってきたが、映画配給会社さんにもそういうところにも気を配ってくれたらなあと考えています。って、『気を配ってくれたら』って言えるほど真浦塚真也は大物ではないんですけど。

それでは、最後に映画の宣伝文句あるあるを1つ発表して、今回のへりくつは終了したいと思います。

皆さんも、映画の宣伝をよく見てみたらいかがでしょうか。結構宣伝だけでも楽しめたりするもんですよ。

『初日来場者数NO.1!』ばっかりを売りにする映画の宣伝を見ると、『この映画、2日目以降大丈夫かだったのなあ。』と親心なみに心配してしまう。

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その21 映画の宣伝文句について思うこと(後書き)

御覧頂き有難うございます。評価・感想等頂けたら嬉しいです。

その22 ワニやモグラを叩いて得点を競うゲームについて思うこと

先日、久しぶりにゲームセンターに出掛けたのですが、そこであるゲームに出会いました。まあ、ここでは名前を出すのはあれなので、『ワニが四方八方から出てきて、そのワニを叩いて得点を競うゲーム』とでもしておきたいと思います。

その『ワニが四方八方から出てきて、そのワニを叩いて得点を競うゲーム』を見た瞬間、ある疑問が頭をよぎったんです。皆さんも多分、いや絶対に一度は考えたことのある疑問だと思います。

なぜ、『ワニ』なのかと。

ほら、考えたことがあるでしょ、この疑問。僕はいつも考えてしまっんです。この『ワニが四方八方から出てきて、そのワニを叩いて得点を競うゲーム』を見るたびに。

だって、『ワニ』ですよ。あの牙がたくさん生えていて、4本足で歩く、恐竜の遠い親戚みたいな生き物ですよ。普通、攻撃しないでしょう。しかも、ハンマーなんていう超至近距離で使う武器なんかで。臆病者の僕としては、そこは麻酔銃で対処させて頂きたいですよ。それか全速力で逃げるか。

しかも、このゲームって、最後のほうになるとワニが一斉に猛スピードで出てくるのです。もう恐怖以外の何物でもないじゃないですか。現実だったら、おしっこもらしちゃいますよ、きっと僕なら。

まあ、似たようなゲームで『モグラが四方八方の穴ぼこから出てきて、そのモグラを叩いて得点を競うゲーム』っていうのもありますけどね。でも、こっちはなんか説得力がある気がしますね。多分、ゲームの作成秘話にこんな話があったら、妙に納得してしまう気がします。

1900年。

アイダホ州で農業を営んでいた、バン・カルロス・ラッセル（46歳）はモグラの被害に頭を抱えていた。ラッセルご自慢のジャガイモは食い散らかされ、ジャガイモ本来の形を必要としないマッシュポテトに使用することはできても、形を利用するポテトチップスには使用することができなくなってしまった。

そこで困ってしまったのが、ラッセルの農家と契約を結んでいたポテトチップス製造会社の「アイダポテトマス」である。

『ラッセルさんのご自慢ジャガイモを守らなくては！』そう決意した、「アイダポテトマス」社長ダ・ポテ・トーマス（37歳）は、従業員25名と共にハンマーを手に、ラッセルさんの畑へと向かったのである。そのときの心境を、後にトーマス氏はこのように語っている。

「いやあ、あのときはただただ必死でした。食うか食われるかの戦いでした。まあ、そうは言っても実際に食われるのは、ジャガイモだけなんだがね。ハハハ。」

モグラとラッセル、トーマスとの戦いは3日にもわたって続けられた。そして、4日目の1900年0月0日、ついにラッセルの振り下ろしたハンマーがモグラの頭にクリーンヒットしたのである。奇しくもその日は、病気で早くに亡くなったラッセルの妻の命日であった。

「きつと、妻が私に力を貸してくれたんだ、妻がああモグラを倒してくれたんだ。そうに違いない。…ただああの達成感は今でも忘れないよ。何て言えばいいのかな。そうだなあ。強いて言えば初恋が実った、あの『イエス！』って感じかな。って何を言わせるんだね、君たちは。」後にラッセルは自叙伝『アイダホの土よこんばんは』でこのように語っている。

その後、ラッセルとトーマスはバーでモグラ退治の祝賀会を開き、大いに盛り上がった。

ここにたまたま居合わせたのが、我が会社の初代社長、タターイ

テ・ボロ・モウケである。モウケはラッセルとトーマスと意気投合し、ラッセルが話した達成感を世界中の子供たちに味あわせてあげたいと考えた。そして試行錯誤を重ねて〇年、19〇〇年〇月〇日、ついに世界を驚愕させるゲームが完成したのである。それが君の目の前にある『モグラが四方八方から出てきて、そのモグラを叩いて得点を競うゲーム』だ！さあ！君もハンマーを手にして、あの達成感を味わおうじゃないか！

いやあ、我ながらいい製作秘話ができたんじゃないでしょうか。映画化もできるんじゃないですかね。モグラにはCG技術なんか使っちゃって。

あつ、誤解されないように言っておきますけど、この製作秘話は120%フィクションですからね。まあ、誰も誤解しないとは思いますが。本当の製作秘話は、僕は全くもって知りません。本当の製作秘話は夏休みの自由研究として調べてみてはいかがでしょうか。

とまあ、散々意味の無いことを書き綴ってきましたが、皆さんもゲームセンターで『ワニやモグラが四方八方から出てきて、そのワニやモグラを叩いて得点を競うゲーム』を見かけたら、一度やってみてはいかがでしょうか。結構いい運動になりますよ。僕なんか、200円でもう汗だけです。

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その22 ワニやモグラを叩いて得点を競うゲームについて思うこと（後書き）

御覧頂き有難うございます。評価・感想等頂けたら嬉しいです。

その23 ランキングについて思うこと

最近、というかここ何年かで、ランキングが増えたような気がします。『CDセールスランキング』や『映画興行収入ランキング』等の王道なものはもちろんのこと、最近では『一度は行ってみたい旅館ランキング』や『世界の絶景ランキング』等の珍しいものまで、とにかくランキングブームでも起きてるんじゃないかというくらい、巷にはランキングが溢れ出ているような気がしてなりません。

ただ、このランキングブームについて、一つだけ腑に落ちないことがあります。それは、『それってランキングとしては確かなの？』ってことです。

『CDセールスランキング』とかだったら意味は分かるんです。ああ、今週の売り上げ順なんだなど。明確な数字が出てますもんね。ただ、『世界の絶景ランキング』とかについては、意味がどうしても理解できないんです。だって、『世界の絶景』の『ランキング』なんですよ。そんなもん、人によって全くもって違うじゃないですか。人によっては金閣寺が一番だとか、万里の長城に勝るものはないとか、我が子の笑顔が一番だとかいう微笑ましい回答もする人もいるだろうし、家から見える桜の木だっていうマイホームパパだっているわけなんです。

そもそも、絶景っていうのは人の心を癒してくれる、地球が生み出した偉大なるセラピストなんです。ナンバーワンよりオンリーワンなんです。それに順位付けするっていうのは、少々野暮ったい話ではないでしょうか。

というか、もしこの『世界の絶景ランキング』が正当化されるんだったら、こんなランキングも成立するんじゃないでしょうか。

『最強ランキング』

第一億〇〇万位 蟻

- 第128000位 空手を習い始めの小学生
- 第13532位 格闘家並びにそれと同等のヤンキー
- 第1986位 ティラノサウルス
- 第15位 自然災害
- 第2位 宇宙
- 第1位 神様

いやあ、意味が分かりません。書いている本人も、意味が分かりません。なんですか、第1位神様って。大体神様出しちゃったら、ランキングのほとんどを総ナメしてしまうでしょう。『理想の上司ランキング』とか、『怒らせると怖いランキング』とか、『偉人ラデこれくらいにしておきます。神様、へりくつを語る上で登場させてしまい、本当にごめんなさい。』

とまあ、いろいろと言ってきましたが、皆さんもランキングはあくまでも参考程度にして、自分なりの楽しい生活を送ってみてはいかがでしょう。自分の価値観つてのはオンリーワンです。まあ、そんな偉そうなことを言っている僕自身、ファミレスの人気ランキングがやっていた後には、ついつい1位を頼んでるんですけどね。だって1位で間違いなく美味しいんですもん。

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その23 ランキングについて思うこと（後書き）

御覧いただき頂き有難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その24 命名について思うこと

『命名』

漢字2文字で表すことのできるこの言葉ですが、この行為の重みは大層なものであると思います。だって、これから一生その名前で呼ぶわけですからね。まあ、だから子供が産まれたときなんかには、姓名判断や画数にかなりこだわるのでしょうか。

ただ、僕が思うに、中には『もつとちゃん』と考えてあげれば良かったのに…』というものもいくつか存在してしまっているんです。例えば、この命名。

『ウミヘビ』

もうね、ここまでくるとただの悲劇ですよ。何ですか『ウミヘビ』って。『海』の『蛇』って意味なんでしょうか。人間の僕がこんなに衝撃を受けているんです。ウミヘビたちにとっては、これ以上の衝撃だったはずでしょう。多分こんな会話がなされたに違いないせん。

とあるウミヘビ「た、大変だよ、井上さん！」

井上と呼ばれたウミヘビ（以下井上）「どうしたんだい、蝶野さん。ははーん。さては浮気がばれて、奥さんに実家に帰られちゃまったんだな。」

蝶野と呼ばれたウミヘビ（以下蝶野）「何言ってるんだい。俺は硬派な男だよ、一人の女性しか愛さない硬派な男だよ。…って、そんなこと話してるんじゃないんだよ！大変なんだよ、井上さん！」

井上「だから、その大変なことを早く話してごらんよ。こつちだって暇してるわけじゃねえんだから。」

蝶野「ああ。じゃあ、驚かないで聞いておくれよ。…実は俺た

ちの呼び名が決まっちゃったんだよ。」

井上「…はあ？」

蝶野「いや、だから、俺たちの呼び名が決まっちゃったんだよ！ああ大変だ、大変だよ、井上さん。俺たちの呼び名が決まっちゃったんだよ。」

井上「いや、何言ってるんだい、蝶野さん。呼び名っていつたって、俺は井上だし、蝶野さんは蝶野さんなんじゃないのかい？」

蝶野「井上さん。あんたも話の分からない男だねえ。いいかい。呼び名っていうのは、俺たちの分類の名称ってことだよ。例えばなあ、…ほら、そこら辺を泳ぎ回っている魚がいるだろ。ほら、あの魚だよ、長野さんとこのバカ息子。…そう、健太だよ。俺たちや健太って呼んでるけどな、ありや人間に言わせると『イワシ』って言うらしいんだ。つまり、呼び名っていうのは、人間が俺たちのことを背格好や特徴が同じ奴等の事を呼ぶときに使う名前ってことだよ。」

井上「なるほど、そういうことか。了解、了解。いやあ、それにしても蝶野さん、あんた博識だねえ。」

蝶野「やめてくれよ。こっぴどかしい。まあ、これでも大学を首席で卒業してるからねえ。」

井上「ところで、その呼び名っていうのは、何になったんだい。さぞかし立派な名前になったんだろうね。」

蝶野「…ああ、そうだった、そうだった。いけね、このままだ大学に行ってましたっていう自慢話になるところだった。いいかい。心して聞くんだよ。俺たちの呼び名は…。」

井上「俺たちの呼び名は？」

蝶野「ウミヘビだよ。」 井上「…はあ？なんだいウミヘビってのは。『ウミ』ってのはあれかい。海のことかい。じゃあ、『ヘビ』ってのはなんだい。なにか深い意味を持った言葉なのかい。」

蝶野「いや、『ヘビ』っていうのは、陸で生活しているひよろ

ながい奴で、おれたちにそっくりらしいんだ。」

井上「え？じゃなにかい。俺たちはその『へび』って奴に似ている『海』に生活している奴だから、『ウミへび』だっていうのかい。」

蝶野「まあ、そうだろうね。」

井上「冗談じゃないよ！そんなバカな話があっというのかい！俺たちはずっと昔の御先祖様の代から海で生活しているんだよ。それを、その陸で生活している『へび』って野郎に似ているからって『ウミへび』なんて名付けられちゃあ、俺は御先祖に申し訳ないね。ああ申し訳ないよ。だってそうだろ。ほら、あそこで泳いでいる魚を見てみなよ。あいつだってひよろながいだろ。それなのにあいつの呼び名は凄いい格好良いじゃないか。ほら、この前蝶野さんが教えてくれたじゃないか。何て言っただけ。…そう！『リュウグウノツカイ』だよ。いやあ、格好良いよ。意気じゃないか。それに比べて、なんだい『ウミへび』っていうのは。ああだんだん腹が立ってきたよ。そもそも、何で俺たちが二番煎じなんだい。『リクへび』だって良いわけじゃないか。何！？どこかの就活サイトに似ている？そんな話はどうだっていいんだよ！ああもう我慢できねえ！直談判にでてやる！」

蝶野「ちよつと、止めておくれよ、井上さん。」

井上「うるせえ！男に二言はないんだ！」

いやあ、井上さん。あなたの気持ちには痛いほど分かります。この出来事を境に、ウミへびは人間を噛むようになっただけかならないとか。…まあ120%フィクションですけど。それに、今落語の番組を見ながら執筆しているせいか、会話が少し落語調。いやあ、影響されまくりのエッセイですね。

皆さんも命名するときには、今一度注意してみてはいかがかし

よつか。まあ、そう言っている僕も、幼稚園児の頃に、補助輪付き自転車に『スーパー真也号』なんて付けてましたけど。ああ、今思い返すだけでも恥ずかしい。

それでは最後に、ウミへびさんと同じくらい呼び名に怒っているであろう方々を紹介して、今回のへりくつを締めさせて頂こうと思います。

『キクラゲ』

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その24 命名について思うこと(後書き)

御覧頂き有り難うございます。

評価・感想等頂けると嬉しいです。

その25 表現方法について思うこと

小説やエッセイを書いていく中で、格好良い表現方法を使つて『あつ、真浦塚真也つて文才があるんだなあ』と思われたらという、どうしようもないナルシスト具合が少なからず顔を出してしまします。えつ、そんなナルシスト具合なんか出さなくていいから、さつさと上手な作品を書き上げろつて？ハイ、ごもつともでございます。まあ、そんなこんなでいろいろな表現方法を使っているんですけど、そこでこんな感情が浮かんできました。

『この表現方法を初めて使つた人は、まぎれもない天才なんじゃないか』と。

皆さんも浮かんだことないですか、この感情。僕はしょつちゆう浮かんでしまうんです。そこで、今回はその中でも特に感動した表現方法を、2つばかり紹介したいと思います。

まずは、こんな表現方法です。

『盆と暮れが一緒に来たような忙しさ』

いやあ、巧い。巧すぎですよ。目の前にてんやわんやしている当事者の姿が目には浮かびます。

でも、この表現方法を初めて使つた人はどれくらい忙しかつたんでしょうね。

だって盆と暮れですよ。高速道路が車で埋まる日ですよ。その人数にご先祖様加わるんですよ。

だいぶ忙しいですよ。もしも日本最大のテーマパークでこの人数が来園したら、大変なことになりますよね。もしかしたら、ホントもしかしたら、0.00001%ぐらいの確率で、あの親切な

従業員さんからあのキラキラした笑顔が一瞬消えてしまつかもしれませんね。

まあなにせよ、この表現方法を初めて使った人。グツジョブ！

そして、もう一つの表現方法ですが、これはもう凄いです。見もらったほうが早いでしょう。こちらです。

『苦虫を噛み潰したような顔』

いやあ、この表現方法を初めて使った人、天才でしょう。もう『表現の王様』と呼んじやってもいいんじゃないですか。少なくとも僕は呼びますよ。ヨツ、表現の王様！

何がすごかって、その勇氣！

だって『苦虫を噛み潰した顔』ですよ。この表現方法を初めて使った人、確実に虫食べてますよね。確実に虫噛み潰してますよね。虫を食べることはもちろん、その味を吟味して、食べた瞬間の顔を自分で瞬時に観察して、『あつ、この顔はこういう時に顔に似ているな』と考えて、実際に使ってみる。

いやあ、この表現方法を初めて使った人。あんたは偉い。グツジョブ！

とまあ、いろいろ書いてみましたが、皆さんも言葉の生まれた背景をいろいろ考えてみてはどうでしょうか。もしかしたら、皆が使っている表現方法にも、隠れたドラマがあるかもしれませんよ。

よし、僕もへりくつエッセイの中から、何か新しい表現方法を考えてみようかな。『刺身にマーマレードをつけて食べたみたいな顔』美味しくないものを食べた表情・思い』なんてどうでしょう。えっ、そのままだつて？そうですよ、考え直してみます。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その25 表現方法について思うこと（後書き）

御覧頂き有難うございます。評価・感想等頂けたら嬉しいです。

その26 女性の格好について思うこと

最近、だんだんと寒さが増し、気分がだんだんと落ち込んでまいりました。前にこのエッセイの中でも述べたんですが、僕は本当に寒いのが苦手で、寒いとテンションがどんどん下がってしまうんです。でも、『前にこのエッセイでも述べたんですが』ということは、このエッセイも早1年を経過したってことになるんですよ。いやあー、本当に有難うございます。これからも続けていきたいと思っております、今のところは。

さて、そんなこんなで、寒さ厳しい季節になったわけですが、そんな中で僕が疑問に思っていることが1つ存在するんです。多分、皆さんも疑問に思ったことがあるんじゃないでしょうか。

なぜ、女性はこの時期でもミニスカートや短パンで外に出れるのか、と。

もうね、街中を歩いていると思うわけですよ。

『えっ！この時期にその格好！？寒くないの！？平気なの！？風邪引かないの！？大丈夫？本当に大丈夫！？えっ、なんかの罰みたいなものですか？寒さの中をミニスカートで歩く刑みたいな。それひどくないですか！そんな罰に黙って従っているんですか！ダメですよ、そんなの。嫌なら嫌って言わないと。親御さんが悲しみますよ。親御さんだって、こんなことをさせるために東京に行かせたわけではないと思いますよ。さあ、故郷に帰りましょうよ。お父さんだって分かってくれますよ。お母さんだって暖かいけんちゃん汁作ってあなたのことを待っているはずですよ。さあ、帰りましょうよ。』
『…まあ、途中とかほぼフィクションですけど。なんか書いている途中で、『ストップ。過疎化！』みたいな標語が浮かんできました。まあ、要するに度が過ぎたっていうことですが。』

でも、そのくらい、女性の方がこの時期にそんな格好でいることに、本当にびつくりして、ある意味尊敬しているんです。だって、もしも北極とかでこんな格好してたら、ほぼ死にますもんね。冷え性がどうか言ってられないですもんね。

と、なんだかよく分からないことをうだうだと言ってきましたが、とにかく、だんだんと寒くなってくるので、あんまり寒さに打ちひしがれるような格好は程々にして、たまには着込んでみてはいかがでしょうか。この時期に風邪なんか引いたら、せつかくのクリスマスもお正月も、100%楽しめませんからね。うちの母親も、最近レギンスというものを履き始めたらしいですよ。まあ、どっからどう見ても『ザ・股引』ですけど。とりあえず、僕はコタツでぬくぬくを、決め込もうと思っています。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その26 女性の格好について思うこと（後書き）

ご覧頂き有難うございます。評価・感想など頂けたら嬉しいです。

その27 『最悪』について思うこと

『最悪。』

最近、よくこの言葉を耳にします。

「株価が過去最悪。」 「うわあ、最悪だ。寝坊なあ。」

「えー。明日雨なの。もう最悪ー。」

「あー寒い。最悪だ。」

…。

というように、最近世の中に『最悪』という言葉が溢れだしているような気がします。まあ、不景気の懐の寒さと冬の寒さの相乗効果でそんなマイナスイメージの言葉を口にしてしまつのかも知れませんが。あつ、なんか僕、今巧いこと言ったような気がします。後で自分を誉めておきますね。偉い偉いってね。

まあ、そんな自画自賛は置いとくとして、ここでは少し『最悪』について考えてみたいと思います。

最悪。

言葉にすると『最も悪い』になります。でも、そう考えると、『最悪』という言葉の口になっている人って、大多数が幸せ者ですよ。最高の最悪者ですよ。あつ、これはあんまり巧いこと言えてない。後で自分を叱っておきますね。コラコラってね。

まあ、そんな自我叱咤は置いとくとして、話を進めたいと思います。

『最悪』って言葉を頻繁に口にする人の『最悪』って、大多数が寝坊とか雨とか寒さとか、実際はそんなにたいしたものじゃない気がします。まあ、株価はかなりたいしたものですけど。そんなたいしたものじゃない事柄を『最も悪い』と言える人はかなりの幸せものだと思います。多分そういう人は、キャビアを食べることは普

通になるんでしょうね。いや、もしかしたら『悪い』事柄に入るのかもしれない。転んで血が出た日なんかは、孫の代まで語り継がれるかもしれない。いやあ、羨ましい。『傷なんて唾付けとけば治るんだ。それくらいでビービー泣くな。』と、転んだ時よりも痛い拳骨が飛んできたというエピソードを持っている僕からすれば、何とも羨ましいかぎりです。

そもそも、最近『最悪』という言葉浪费了すぎているような気がします。『必ず殺す技』を使いまくっても倒せないようなRPGゲームをやっているわけじゃないんだから、そんなに浪費しなくてもいい気がします。

皆さんも、『最悪』の浪費には気を付けてみてはいかがでしょう。あまり使いすぎると、いざっていうときに『最悪』の残高が0円になってしまってるかもしれないよ。

と、今回一番の巧いことを言ったところで、今回のへりくつを締めさせてもらおうと思います。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その27 『最悪』について思うこと（後書き）

ご覧頂き有り難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その28 品格について思うこと

品格。

最近よくこの言葉を耳にします。もうブームみたいなもんです。品格が街に溢れています。そのうち『おっ、品格が溢れだした。そろそろ大相撲が始まるのかな。』みたいに、品格で時事が分かるようにでもなってしまういそうな勢いです。いやあ、スポーツ選手じゃなくて良かったです。スポーツ選手だったら、今頃メディアで『品格注意報』が発令されていますよ、きつと。まあ、体育の成績がアヒルさんだった僕には要らぬ心配なんですけど。

とにかく最近、まあ本当に品格が取り沙汰されています。本当に品格注意報が発令されてしまいそうです。

でも、そんなに『品格、品格』って求めすぎていると、世の中生きづらくなるんじゃないでしょうか。

例えばこんなふうに。

実況「9回裏、ツアーアウト3塁、一打サヨナラの場面。バッターは頼れる主砲、西村です！さあ、西村打てるか！それとも上野が抑えるのか！」

観客席

宮元「いやあ、山口さん。盛り上がっていますね。」

山口「そりゃそうですよ、宮元さん。なんたって優勝がかかっていますからねえ。」

宮元「そうですね。よし！山口さん！西村選手をを応援しましょうー！」

山口「そうしましょう！ええ、ぜひそうしましょうー！」

宮元「フレー、フレー！西村！上野をブツつぶせー！」

山口「ちよっ、ちよっと待ってください。宮元さん。」

宮元「どうしたんですか、山口さん。」

山口「宮元さん。『ブツつぶせー!』はいかがなものかと。品格を問われますよ。」

宮元「あらー!いやはや私としたことが。すみません。そうですね、品格がありませんよね。」

山口「そうですね。ちゃんと応援しましょうよ。」 宮元「そうですね。ちゃんと応援しな…。おつ、打った!イケ、イケ!…なあーんだ、ファウルかあ。」

山口「宮元さん!」

宮元「ど、どうしたんですか、山口さん。そんな怖い顔して。」

山口「宮元さん、あなたねえ。『なあーんだ、ファウルかあ。』って。ファウルだとしても、西村はあそこまでボールを飛ばしたんですよ。我々にあそこまで飛ばせますか?いや、バットに当てることすら難しいでしょう。それをねえ、ガツカリなさるなんて。宮元さん、あなたの品格を疑われますよ!」

宮元「す、すみません、山口さん。そうですね。」

山口「そうですね。ちゃんと応援しないと。フレ、フレ、

西村!頑張れ、頑張れ、西村!」

宮元「山口さん。」

山口「どうしたんですか?宮元さん。」

宮元「今考えたんですけど。我々は西村ばかりを応援していいんでしょうか。仮にも上野は球界を代表する選手ですよ。それを、茨城ラビットファンだからといって、青森スネークの選手を応援しないというのは…。品格を疑われませんかね。」

山口「あつ!宮元さん。あなたの言うとおりだ。どちらの選手も頑張っているんだから、どちらにも声援を送らないと。いやはや私としたことが。宮元さん。精一杯声援を送りましょう。」

宮元「そうですね。そうしましょう!」

宮元・山口「フレ、フレ!西村忠仁さん!フレ、フレ

!上野光司さん!どちらも頑張ってください!」

いやぁ……。はつきり言って面倒臭いですよね。こんな野球中継はあまり見たくないもんです。まあもし放送されたら、野球そつちのけで観客席にばかり注目してしまいそうです。あつ、こんなこと言ってる宮元さんや山口さんに怒られてしまうかも。

皆さんも、もう一度品格について考えてみてはいかがでしょう

か。
もしかしたら、『品格、品格』と言っている姿こそが、一番品格のない姿なのかもしれませんよ。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その28 品格について思うこと(後書き)

御覧いただき有り難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その29 白身魚のフライについて思うこと

白身魚のフライ。

美味しいですよ、これ。

揚げ物を食べたいけど、健康に気を付けないといけなく、でも揚げ物は食べたく、かといってカロリーは無視できず、そんなことよりも、そもそもお金があんまりない僕にとって、この『白身魚のフライ』にはかなりお世話になっています。お歳暮や御中元を贈らなくちゃいけないくらい、本当にお世話になっています。

でも、この『白身魚のフライ』を口に入れる瞬間、まあ僕にとっては週一の頻度なんですが、毎回疑問に思うことがあるんです。多分、いや絶対皆さんも10回以上は疑問に思っているはずですよ。

白身魚のフライの『白身魚』って、一体どの魚なのか、と。

ほら、皆さんも疑問に思っていたでしょう。白身魚、白身魚っていうけど、結局何の魚なのって。

だって、このご時世ですよ。食品の記載は厳しく言われ、どこで生産されたか、どこの工場生産されたか、野菜なんて、どこそれ県でなにそれってという笑顔の素敵な農家の人や丹精込めて作りましたって表記されて、チョコレートの保存方法には『高温、直射日光を避けてください』なんて考えてみれば当たり前のことを丁寧に表記される、このご時世ですよ。

いや、もしかしたら白身魚のフライはわざと『白身魚』なんていうふわっとした表記をしているのかもしれない。『哀れなもんだ、表記にばかり翻弄されるなんて。大事なのはそれが何物であるかということより、それを口にするお前自身が何者であるかということなんじゃないのかい?』と私達に問いかけているのかもしれない。

皆さんも、白身魚のフライの問いかけに耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

ちなみに僕は白身魚のフライの問いかけには無視を決め込もうと考えてみます。だって難しいことを考えながら白身魚のフライを食べたって美味しくくないですもん。それにその問いかけに真剣に向き合ってたら、『へりくつエッセイ』なんていう、ふわっとしたエッセイなんて書いてられませんからね。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その29 白身魚のフライについて思うこと(後書き)

御覧頂き有難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その30 30について思うこと

いやあ、ついに『へりくつエッセイ』もその30を迎えました。30ですよ、30。ついに、30ですよ皆さん。いやあ、これも毎度のへりくつに付き合ってくれる皆さんがいてくれるからこそ。本当に有り難うございます。

そこで、今回はお礼の意味を込めて、皆さんに『へりくつを生み出す方法』をお教え致します。え？そんな方法知りたくもないって？まあそうおっしゃらずに、ちよつとだけお付き合ってくださいな。

へりくつを生み出す方法。それは、『とりあえず口に出す。』、そして『そこに言葉を重ね続ける』、たったこれだけです。名付けて『へりくつミルフィーユ作戦』です。

口に出した言葉に根拠や証拠を求めてはいけません。はつきり言ってしまうえば、意味を考えてもいけません。ただ、言葉を重ねてしまえばいいんです。根拠や証拠や意味を求める隙もないくらい言葉を重ねてしまえばいいんです。そして自分の中で完結しちゃえば良いんです。自分の中で完成させちゃえば良いんです。そうすれば、そこにはまあ見事なへりくつミルフィーユが完成されていることでしょう。

皆さんも、一度このへりくつミルフィーユを完成させてみてはいかがでしょう。多分、恥ずかしさと『何やってるんだろう、私』という自己嫌悪が皆さんを優しく包んでくれるはず。僕も包まれています、恥ずかしさと自己嫌悪に。でも、何だかんだで30回もへりくつミルフィーユを作り続けています。多分これからも作り続けます。ですので、これからも、この恥を塗りたくったような『へりくつエッセイ』を温かい目で御覧頂けると有難いです。

長々とへりくつ失礼致しました。
またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その30 30について思うこと(後書き)

御覧頂き有り難うございます。

評価・感想等頂けると嬉しいです。

その31 都内の駅について思うこと

最近仕事の関係で都内に出かけることがあるんですが、そこで不満に感じるものが1つあります。多分、東京色に染まっていない方々なら僕と同じ考えをお持ちのことだと思います。

『都内の駅は自己主張が足りない』と。

ほら、東京色に染まっていない皆さん。分かるでしょ、この気持ち。

都内の駅は、自己主張が足りないんです。自分が駅だということとを全然主張してこないんです。『えっ、ここにいたの。』と感じる駅が多すぎるんです。まあ、新宿駅みたいに『はい！俺、駅です！』みたいな駅は別として。

どうしてなのでしょう。駅にも『草食系』ってのが流行っているのでしょうか。もっと自分の存在をアピールしても良いと思いません。たまにコンビニエンスストアや漫画喫茶の看板にすら負けている駅もありますからね。

田舎暮らしに慣れている僕としては、駅さんには、50メートル先からでも分かるくらいの自己アピールを切に希望します。駄目ですよ、駅なんだから。もっと肉食系にならなくちゃ。まあ、そんなことを言っている僕自身、昨日の夕食は冷麦だったんですけどね。早くも夏バテ気味です、まだ6月ですけど。七夕では『夏バテしませんように』と願ってみようと思います。

皆さんも、暑さに負けずに、駅に注目してみてはいかがでしょうか。

もしかしたら、今通り過ぎた建物は、どこかへ貴方を連れてってくれる秘密の駅かもしれませんよ。

長々とへりくつ失礼致しました。
またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その31 都内の駅について思うこと（後書き）

ご覧頂き有り難うございます。

評価・感想等頂けると嬉しいです。

その32 カレー屋の作業服について思うこと

最近、街中で本格的なインドカレーのお店をよく見かけるようになりました。まあ、カレー好きの僕としては嬉しい限りなんですけど。

ただ、一つだけ腑に落ちないことがあるんです。多分皆さんも共感してくれらることでしよう。

『カレー屋の店員の作業服が、なぜ白いのか』と。

ね、皆さんも共感してくれただししよう。え？コックコートはだいたい白だろって？いやいやいやいや。カレーに白はまずいでしよ。汚れるでしょうよ。

だって、考えてもみてください。もし、あなたがカレーを食べる時に着ている真っ白なTシャツにカレーをこぼしたらどうしますか？慌てて染み抜きをしますよね。それでも落ちなかつたらどうします？カレーですよ。なかなか落ちませんよ、彼ら。

そう、テンション下がるんです。絶対にテンションが下がるんです。ほら、カレーに白は常にこんなにリスクと隣り合わせなんです。こんなにリスクを背負いながら、カタコトの日本語で笑顔で接客してくれる店員さん、まああんたはなんて偉いのでしょう。心の中で心からの拍手を送りたいと思います。

いや。もしかすると、あの白い作業服はカレーで汚れることで本当の効果を発揮するのではないのでしょうか。

だって、想像してみてください。茶色のカレーがかかった白い作業服を。何を思い浮べましたか？

そう、カレーライスです。カレーライスなんです。もし、トイレットペーパーと人間が生きていく上で外に出さなくちゃいけない

モノを思い浮べちゃった方、多分お腹にうつぷんとは違うモノが溜まってると思うので、ヨーグルトとかゴボウでも口にして、力一杯頑張ってください。

そう、彼らは自らをカレーライスに見立てて、『走る広告棟』ならぬ『働く広告棟』を演じているんじゃないでしょうか。そんな影の努力をしながらカタコトの日本語で笑顔で接客してくれる店員さん、まあーあんたは偉い！心の中で心からの喝采を浴びせようと思います。

皆さんも、そんな努力をしてる店員さんに感謝しながらカレーライスを口にしてみてはいかがでしょう。本格的なインドカレー、本当に美味しいですよ。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたら、お会いしましょう。

失礼します。

その32 カレー屋の作業服について思うこと（後書き）

ご覧頂き有り難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その33 ネーミングについて思うこと

日頃街中を歩いていると、いろいろなネーミングに出会います。

『とろっ、ふわっな○○』

『天使の○○』

『レモン○○個分の○○』

『○○によく効く○○』等々…。

本当に街中にはネーミングが溢れています。ネーミングの洪水です。ゲリラネーミングです。もしかしたら、そのうちネーミングだけの判断で市場が回るんじゃないでしょうか。だとしたら、こうしちゃいられません。僕もネーミング作りに参加して、一攫千金を狙わなくては。

でも、ネーミングってそんなに簡単に作れるもんじゃないですよ。ね。

よし！それじゃあ、まずは『真似』から始めてみましょう。あつ、言つときますけど、『真似』ですからね。『コピー』じゃないですからね。あくまで『参考』にして『似せる』だけですからね。

よし、じゃあ某有名なあの野菜ジュースのネーミングを『真似』してと…。

『1日のカロリー、これ1本』

うーん。この商品、絶対ドロドロしてて、甘すぎるかしよっぱすぎるかで、後味がキツイでしょうね。と言うか、飲めるんでしょうか、この商品。かなり濃度が強そうですね。ストローで吸う

タイプだったら、吸い尽くすことに1日のカロリーを使い果たしてしまいそうです。

うーん。却下、ですね。

よし！それじゃあ、『逆転の発想』なんてどうでしょう。既存の根底を覆す発想、それこそ今の日本に必要なのではないのでしょうか。

よし、それじゃあ、某有名なあの、なぜか美味しそうに感じるあのネーミングに『逆転の発想』を施して…。

『カレー屋のそば』

うーん。趣味でしょうね。定休日に家族に振る舞ったら案外好評だったんで、ちよつと調子に乗っちゃったんでしょね。

甘いですねえ。スパイスの匂いがプンプンする店内で、なんでソバなんでしょうね。繊細なソバの味が台無しじゃないですか。

えっ？じゃあそんな繊細なモノを扱ってる店でスパイスの匂いがプンプンするカレーを出してるのかって？おお、正に『逆転の発想』。

それは、あれですよ。目には見えない…ソバ屋の店主…パワー…的な…もの…。…よし！却下！

うーん。やっぱり、ネーミングを作るのは難しいですね。どうやら僕には消費者の方が性に合ってるみたいです。

皆さんもネーミングについてもう一度考えてみてはいかががでし

ようか。もしかしたら、今手にしてる商品さんは、ネーミングのビツクさに内心ビクビクしているのかもしれないよ。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

それにしても、『ビツクさにビクビク』って。オヤジギャグにしては度が過ぎてますよね。いやあ、歳をとるのは怖いものですね。

あつ、失礼致しました。

失礼します。

その333 ネーミングについて思うこと（後書き）

ご覧頂き有難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その34 究極の選択について思うこと

一応前書きしときます。

今回の『へりくつエッセイ』には、多少お下品な表現が含まれています。お下品な表現な苦手な方、嫌悪感を感じる方は黙読するのはお控え下さい。また、音読するのは絶対にお控え下さい。音読することによって、貴方が世間から植え付けられたイメージについては、僕は責任をとりません。

『選択』。

人間は人生を送る中で何らかの選択をしなければいけません。就職、結婚、家の購入等の大きなものから、今日の夕飯は蕎麦にしようかうどんにしようか、目玉焼きに醤油をかけるかソースをかけるかといった小さなものまで、人生は本当に選択の連続なのです。

そんな『選択』の中にも、『究極の選択』と言われるものがあるのを、皆さんはご存知でしょうか。『究極の選択』と言われるものがあるのを、『究極の選択』と言われるものがあるのを、皆さんはご存知でしょうか。それは、この選択です。

「うんこ味のカレーとカレー味のうんこ、食べるならどっち？」

もうね、なにが凄いつて、これを『究極』と言えてしまう日本の発想能力。凄いですねえ、日本人。まだまだ捨てたもんじゃないですねえ。

でも、実際にこの選択を投げ掛けられたらなんて答えればいいんでしょうね。まあ、僕だったら『そんなもん食えるかつ！』って有りったけの関西気質で、まあ、地元は茨城なんで曖昧関西で突っ込みたいと思います。でもまあ、断れないでしょうね。多分こんなこと言ったら、『あー、真浦塚くんダメなんだあー、どっちか食べないといけないだよ！いーけないんだ、いけないんだ！先ー生に言つてやる。』と無駄な先生プレスをかけられてしまいそうです。まあ、一番迷惑なのは先生なんでしょうけど。

そもそも、この『うんこ味のカレー』と『カレー味のうんこ』ってなんなんでしょうか。なんでこんな得体の知れない物を食べるのが『究極の選択』なんでしょうか。いや、『究極の選択』に長年君臨するくらいです。なにか特別な『うんこ・カレーヒストリー』があるに違いありません。例えばこんなふうに。

ーとある小学校ー

井上少年（以下井上）「あつ、田中くんおはよう。」

田中少年（以下田中）「あつ、井上くんおはよう。」

井上「はあーああー（意味深な溜め息）」

田中「ど、どうしたの、井上くん。」

井上「聞いてよ、田中くん。日曜によねっちの家行っただけ

どさー。」

田中「あつ、そういえば日曜よねっちの誕生日会だったんだよね。僕、塾でいけなかつたんだ。どうだった？」

井上「どうもこうもないよ！最悪だよ！」

田中「え？なんで？」

井上「いやあ、よねっちの母ちゃんが誕生日会だからってカレー作ってくれたんだけどさ。」

田中「えつ、カレー？いいなあ、僕、カレー大好きなんだ。いいなあ、行きたかつたなあ。」

井上「いいことなんかあるもんか！凄いな味かつたんだよ！」

田中「えつ、何が？」

井上「カレーがだよ。カレー、が！本当に不味かつたんだからあれは本当に不味かつたよ。うんこみたいに。いや、もう、うんこだね！うんこ味のカレーだね。」

田中「えつ！井上くん、うんこ食べたことあるの！？」

井上「は？」

田中「えつ、だって『うんこみたいに不味い』って…。」

井上「違うよ。例えばだよ。アンモニアを嗅いで『腐った卵』って言うみたいなものだよ。」

田中「えつ！井上くん、腐った卵臭いだことあるの！？」

井上「だから、例えばって言うてるだろ！」

田中「…ごめん。」

井上「いいよ、別に謝らなくたって。ああー、でもよねっちの家のカレー不味かつたなあー。」

田中「そうだね。たべるなら美味しいカレー食べたいよね。」

井上「そうだよなあ。あつ、そういえば田中くんのお父さんってホテルのコックさんじゃなかつたっけ？」

田中「う、うん。」

井上「いいなあ、カレーも美味しいんだろうなあ。」

田中「う、うん。いつつホテルで作ってるみたい。」

井上「いいなあ、幸せじゃん。」

田中「う…うん。」

井上「ん？どうしたの？」

田中「う…うん。カレーは美味しいんだけどさ。最近1ヶ月、朝晩ずつとカレーなんだ。」

井上「えっ！田中くん、インド人だったの？」

田中「ううん、日本人。」

井上「…分かってるよ。冗談だよ。」

田中「…ごめん。」

井上「…いいよ、謝らなくて。でも、なんでカレーばかりなの？」

田中「うん。なんかホテルでカレーフェアやるんだって。それで毎日試作品作って…。」

井上「そつかあ、それも大変だなあ。」

田中「うん。飼ってるジョンも毎日カレー食べさせられて可哀想なんだ。」

井上「えっ！ジョンってインド犬なの？」

田中「ううん。秋田犬。」

井上「…だ・か・ら、冗…。」

田中「ごめん。」

井上「…いいよ、喰い気味に謝らなくて。でも大変だね、ジョンも。」

田中「うん。フンもカレー臭くて参っちゃうよ。」

井上「うわあ、それ最悪だなあ。いや、でも、そんなにカレーばかり食べてたら、ジョンのうんこも美味しくなってるんじゃないの？」

田中「えー、そんなことないよ。だってうんこだよあ。」

井上「いや、そこそこイケるんじゃないかな？少なくとも、よねうちの家のカレーよりは美味しいと思うよ。」

田中「いや、でも…。」

井上「田中くんは、よねっちの家のカレー食べたことないからそんなこと言えるんだって。本当に不味かったんだから。じゃあ、一緒に行ったハツシーに聞いてみようよ、どっちを食べるか。もしかしたら、ジョンのうんこ選ぶかもしれないよ。」

田中「えっ?…でも、よねっち可哀想だよ。」

井上「大丈夫だって。」

田中「えっ、…でも。」

井上「いいから、いいから。おい、ハツシー。」　ハツシ

ーと呼ばれた少年「ん?どうしたの。」

井上「いやあ、実はさあ…。」

ストオーツプ!!

ダメです。これ以上はよねっちくんがあまりにも可哀想です。

このイジメの火種となりそうな会話をやめるにはどうしたらいいかそれは、今回の『へりくつエッセイ』をお開きにする以外に方法はありません。皆さん、くれぐれもこんな残酷な質問を真似しないようお願い致します。真似していいのは、冗談が通じない田中くんの生真面目さのみです。

皆さんも、もう一度『選択』について考えみてはいかがでしょうか。実は、もう貴方の中で答えが出ているのかもしれないよ。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その34 究極の選択について思うこと（後書き）

ご覧頂き有り難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その35 『○○風』について思うこと

『○○風』。

ここ最近になって、よくこの言葉を耳にしましたような気がします。というか、使い過ぎなような気がします。例えて言うなれば、ひと昔まえに何処かの川に異常発生したボラくらい。

もうそれくらい『○○風』が発生しちゃってるんです、異常発生しちゃってるんです。なんなんでしょう、この異常発生。これも地球温暖化の与える影響でしょうか。だとしたら、自然の影響って恐ろしいですね。

そもそも、『○○風』ってなんなんでしょうか。『実際は○○じゃないけど、○○に近い、いや、もう○○と見分けがつかないほど○○らしい、○○的な、○○要素をこれでもかと詰め込んだ物』ってことなんでしょうか。

でも、だとしたら『○○風』って物凄い技術の詰まった形態なのではないでしょうか。だって、実際には○○じゃないんですよ。でも、限りなく○○に近いんですよ。ということは、○○に近付ける技術は、もう世界レベルの技術と言ってもいいんじゃないでしょうか。

例えば、『手仕込み風トンカツ』。これって、実際には手で仕込んでない訳じゃないですか。でも、一般的に売られている商品と違って、そのトンカツには手で仕込まれた感じがあるわけじゃないですか。だとしたら、これって物凄いことですよ。手で仕込んでないのに手で仕込んだ感じ。じゃあ、何で仕込んだんでしょうか。

…足…でしょうか。…まあ、足…でしょうね。手じゃないんですものねえ。じゃあ、足でしょうね。

でも、これって凄いですよね。足で手を再現する。しかも、薄利多売の製品だから、1日に何万個も。いやあ、凄いですね。

時には、トンカツの衣が足のツボを刺激して涙ぐむときもあるでしょう。

時には、水虫や外反母趾の為に、志し半ばで泣く泣く左遷させられる従業員もいたことでしょう。

『○○さん家の旦那さん、足でトンカツ作ってるらしいわよ。』と近所で噂になったこともあったでしょう。

でも、彼らは足でトンカツを仕込み続けてくれるんです。我々に『手仕込み風』を伝えるために仕込み続けてくれるんです。

だとしたら、僕たちは何をしなければいけないか。そう、美味しく食べなくてはいけないんです。仮に足で仕込んでいたとしても、手で仕込んだと思いつながら、美味しく頂かなくてはいけないんです。なんにせよ、従業員の方々、あんたらは偉い！

皆さんも、『○○風』との付き合い方をもう一度考えてみてはいかがでしょうか。何も考えないで使つてると、その内『たぬきそば風きつねうどん』みたいな着地点の意味が分からない商品が市場を占領してしまうかもしれませんよ。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

あつ、そうそう。『手仕込み風トンカツ』なんですけど、多分あれは機械で作っているんでしょうね。

…大丈夫です。『足で仕込んでいる』という発案の違和感は、書いている本人が一番感じるからです。

失礼します。

その35 『〇〇風』について思うこと（後書き）

ご覧頂き有り難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その36 イルミネーションについて思うこと

最近街を歩くと、至る所にきらびやかなイルミネーションが目
に飛び込んできます。『ああ、もうクリスマスなんだな。それな
に俺は、仕事仕事。発泡酒を飲むのもままならないのに。ああ、あ
あー。』と、イルミネーションに人間社会の愚痴を、知らず知らず
のうちにぶつけている方もいることでしょう。

でも、このイルミネーションって、本当に許可を取っているん
でしょうか。相手方は納得して、あんなきらびやかなイルミネーシ
ョンを行っているのでしょうか。いや、多分無許可の装飾がほとん
どでしょう。だって、あの数の多さですよ。都会なんて、駅の周り
は全部イルミネーションみたいなもんですよ。それに一つ一つ許可
を取る。いやあ、無理無理、無理ですよ。もしそれが出来たら、日
本の選挙の投票率は、ほぼ100%に決まっていますよ。

えっ？さつきから真浦塚真也はなにを『無理』だと言っている
んだって？イルミネーションは業者が管理者にちゃんと許可を取っ
ているに決まってるじゃないかって？

違いますよ。僕が言っているのは、『装飾させられている方々』
への許可ですよ。だって当たり前じゃないですか。イルミネーショ
ンの装飾を飾られるのは、管理者じゃなくて、木や建物や地面な訳
ですよ。それなのに、管理者には許可を取って、実行される方々に
は許可を取らずにいきなり執行。いやあ、こんなこと、最近問題に
なってる『パワーハラスメント』みたいなもんですよ。ただでさえ、
普段勝手に触ったり、踏んだり、中に入ったり、寄りかかったり、
待ち合わせ場所にしたりして、『セクシャルハラスメント』まがい
のことをしているのに、そこにまたまた『パワーハラスメント』だ
なんて。もし木や建物や地面に、人権みたいな権利があつたら、今
ごろワイドショーは、某伝統芸能のケガしちゃった事件なみに大き
く取り上げられてしましますよ。

皆さんも、街中のイルミネーションにもっと目を向けて見てはいかがでしょうか。

もしかしたら、あのきらびやかさは、装飾の電気のせいではなくて、装飾させられている方々の恥ずかしさによる赤面のせいなのかもしれませんよ。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その36 イルミネーションについて思うこと（後書き）

御覧頂き有難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その37 奇跡の言葉について思うこと

日ごろ携帯電話やパソコンを使用していると、自分自身による言葉の間違いとそれを無理やり変換してしまう携帯電話やパソコンの悲しい嵯峨によって、なんとも言えない不思議な言葉が誕生してしまうことが多々あります。僕自身はそれを『奇跡の言葉』と呼んでいます。だって奇跡じゃないですが、双方が間違えることによって言葉が生まれるなんて。まあ、8割がたは日本語を正しく理解していない僕自身に問題があるのですが。

と言うことで、今回は僕が出会った中で衝撃を受けた『奇跡の言葉』を2つほど皆さんに紹介していこうと思います。まず1つ目は『体育』から生まれた『奇跡の言葉』です。『体育』は、皆さんご存知の通り本来読み方は『たいいく』です。でも日常では私たちは『たいく』と発音しています。その為、本来発音している通りに入力してしまうと、日本の優れた変換機能は無理やり『奇跡の言葉』を誕生させてしまうのです。

『タイ苦』

うーん。単身赴任中の悲しきで父親の本音でしようね。愛する妻と娘を残して熱意を持って来てみたものの、海外の生活が馴染まなかったのでしょうか。原因は何だったのでしょうか。パクチーが口に合わなかったのでしょうか。まあなんにせよ、中々の『奇跡の言葉』です。『奇跡の言葉ドキュメンタリー賞』でも与えておこうと思います。

そして2つめは『原因』から生まれた『奇跡の言葉』です。これはよく誕生させてしまう言葉です。誕生させすぎて『奇跡』の価値を下げてしまうくらい、よくやってしまう『奇跡の言葉』です。『原因』は周知の通り本来の読み方は『げんいん』です。でも普段の私たちは『げいいん』と発音しています。その為、本来発音している通りに入力してしまうと、日本の最先端変換機能は、こんな『奇

跡の言葉』を誕生させてしまうのです。

『鯨飲』

皆さん、ついに未確認超巨大生物の発見ですよ。だって、『鯨』を『飲む』のですよ。『鯨』を『食べる』のではなく、世界最大の哺乳類である『鯨』を『飲む』のですよ。食べるというのであれば、シヤチだって食べていますし、人間だって、まああんまり書く可他方面の人から批判されてしまうかもしれませんが、ベーコンや竜田揚げにして食べています。でも、飲むとしたら話は変わりますものね。どうやって飲むのでしょうか。やはり、蛇のように丸呑みにしてゆっくりと消化していくのでしょうか。だとしたら、海の中の蛇みたいな生物ということ、ウミヘビの一種なんではないでしょうか。だとしたら、かなり大きなウミヘビですよ。主食がシロナガスクジラだとしたら、最長で34メートルのものが計測されているから、それ以上つてことですよ。体長が34メートルでウミヘビの仲間うーん、もう恐竜みたいなものですね。まあなにせよ、かなりの『奇跡の言葉』です。『奇跡の言葉大発見で賞』でも与えておこうと思います。

皆さんも、『奇跡の言葉』と上手く付き合ってみてはいかがでしょう。もしかしたら、今送ったメールの中に『奇跡の言葉』が隠れていて、先方でちょっとした話題になっているかもしれませんよ。

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その37 奇跡の言葉について思うこと（後書き）

ご覧頂き有難うございます。

評価・感想等頂けると嬉しいです。

その38 表現方法について思うこと2

小説やエッセイを書いていく中で、格好良い表現方法を使って『あつ、真浦塚真也つて文才があるんだなあ』と思われたという、どうしようもないナルシスト具合が少なからず顔を出してしまします。えつ、そんなナルシスト具合なんか出さなくていいから、さつさと上手な作品を書き上げろつて？ハイ、ごもつともでございます。まあ、そんなこんなでいろいろな表現方法を使っているんですけど、そこでこんな感情が浮かんできました。

『この表現方法を初めて使った人は、まぎれもない天才なんじゃないか』と。

皆さんも浮かんだことないですか、この感情。僕はしょつちゆう浮かんでしまうんです。そこで、今回はその中でも特に感動した表現方法を紹介したいと思います。

えつ？この冒頭の文章、どこかで読んだことがあるですつて？ええ、その通りです。まあこんな世の中ですから、エッセイの文章もリサイクルでエコにいきましょう。大丈夫です。リサイクル元の文章を書いたのも僕ですから、パクリとか著作権とかそういう問題は皆無ですから。まあ問題といえば、『その40』に到達していないにもかかわらず、もうリサイクルに走っている僕自身のネタ切れ感にあるのでしょつけど。

まあ、何はともあれとりあえず発表させていただこうと思います。今回、僕が感銘を受けた表現方法はこちらです。

『鳩が豆鉄砲をくらった様な顔』

いやあ、凄いですね。凄すぎますね。すぎますね。

皆さんも聞いたことがあると思います、この表現方法。いやあ、物凄いですね。もう別格ですね。凄すぎて、『凄い』と言うのも失礼かもしれませんね。

だって、『鳩』が『豆鉄砲』をくらった『顔』ですよ。特異すぎるでしょう、このシチュエーション。

僕今まで見たことないですよ、この光景。蛇に睨まれている蛙や、泣いているときに鉢に刺されてしまった子供なら見ることがあるかもしれませんが、鳩が豆鉄砲をくらった光景なんてなかなか拝めませんよ。

もしかしたら、へそで湯を沸かす、びつくり人間と同じくらいの衝撃映像なのかもしれません。

僕がこんなに驚いているくらいですから、多分撃たれた鳩さんはかなりの衝撃だったでしょう。例えばこんな風に。

いやあ、雨が止んでよかったよかった。あんまり降られちまうと地面がぬかるんで歩きにくいっいたらありやしないよ。

さてと、それじゃあそろそろ飯とするかね。そろそろミミズさんが引越しを始めるころだろう、急がなくちゃ。ああ、膝が痛い。まったくなんでこんなに足が細いのかねえ。普通この図体だったらもう少し立派な足でもいいと思うんだがね。いやはや、進化というのは、不便というか世知辛いというか。

どーん。

アイタタタ。タタタタアー。ありやありや、これはこれは人間さん。申し訳ないねえ、ちよっと考え事していてねえ。申し訳ない、申し訳ない。鳥だけに上の空に行きたがるもんで、こりゃ申し訳ない。それじゃあ、お互いお気をつけて。

ん？どうしたんだい人間さん。いやいや気にしないでくれ。こっから見ても若いうちは『胸張りのトミさん』なんて呼ばれたもんさ。どこも怪我しちやいないよ。いやあ、なになにさっきの『アイタタ』は掛け声みたいなもんさ。なァーに気にすることはないさ。さて

と、それじゃあお互いお気をつけて。

ん？どうしたんだい人間さん。あれもしかしたら人間さん、あんなに怪我をなさったのかい。やや、それは大変だ。どうしよう救急車を読んだほうがいいかい。もしそうならば、わしに任せておきなさい。足にくるつと文でも括りつけてくれれば、すぐに大病院までひとつ飛びさ。いやいや気になされるな。こう見えても若いいうちは『胸張りの…』。

ん？どうしたんだい人間さん。ん？なんだいその手に持っているのは。やや！いやはや、やや！おいおい人間さん。その手に持っているのは銃じゃないか！駄目だぞ、人間さん、早まつちやいけないよ人間さん。やや！これこれ人間さん。冗談でもそんなものこちらに向けてはいけないよ。それは冗談がきつすぎるよ人間さん。

…おい。冗談だろう、人間さん。撃つのかい、私を撃つのかい、人間さん。…これは大変なことになりますぞ、人間さん。こう見えても人間さん、私たち鳩は『平和の象徴』ですぞ。『平和』ですぞ。『平ら』で『和やか』ですぞ。私を撃つたらどうなるか分かるでしょうに。さあさあ、そんな銃はしまいなさいな。

…そうか。どうしても撃つというのだな、人間さん。…そうか。よし！そういうことなら人間さん、わしも腹をくくろうじゃないか。ええい！見くびってもらっては困るぞ、人間さん。『チキン野郎』等というのは人間がつけた勝手な想像！本当のチキンはどんなものか見せてあげましょう。さあ、どこからでも撃つてきなさい！

バーン！！！！

ひいっ！！！！

…んっ？…豆？これは…豆じゃないか人間さん！いやあ、そういうことでしたか、人間さん。いやはや、一本取れましたぞ人間さん。いやあ、泣いてしまうかと思いましたが。いやいや、泣いてなんぞおりませんぞ、人間さん。これは皮膚の一部、決して涙でも眼ヤニでもありませんぞ。いやはや、あーよかった。あーハツが痛い。あー膝も痛い。…ミミズにはグルコサミンは入っていないのかね

え。

いやあ、ついにドツキリの世界も人対人の枠を超えたんですね。人対鳩、いやあ斬新な設定ですね。そのうち廻り回って鳥対鳩のドツキリなんかも放送されるかもしれませんね。まあ、放送されてもただのアニマル映像でしょうけど。

皆さんも、日ごろ使っている表現方法を見直してみてはいかがでしょう。もしかしたら、その表現方法にはアカデミー賞レベルの誕生ドラマが隠されているかもしれませんよ。

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その38 表現方法について思うこと2（後書き）

ご覧頂き有難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

お願い

今回、鳩と豆鉄砲のシチュエーションについて書きましたが、あくまでエッセイ内の話なので、絶対に真似しないでください。もし真似して、そのことを友人に話したり、その様子を動画投稿サイトで発露したりして、周りの評価が下がることになったとしても、僕は責任を取れませんので。∴まあ、誰もこんな馬鹿馬鹿しいこと真似しないか（笑）

その39 厄年について思うこと

皆さんになぞなぞです。としてはでもとりたくないとしてはな
ーんだ。

さあ、なんでしょう？

えっ、『ふんどし』？そうですね。とっちゃったら性犯罪です
もんね。八百長疑惑とか言ってられない事態になっちゃいますもん
ね。

えっ、『諭し』？まあね、思春期ですもんね。とやかく言われ
たくないですもんね。

えっ、『歳』？ああ、そもそもとりたくないってやつですね。
そうですね、永遠の18歳ってのもいいかもしれませんね。

ブー、時間切れ。正解は『厄年』。えっ？なぞなぞじゃないじ
やないかって。いやいや。なぞなぞと言っておいて、正解がいたっ
て普通、これこそが謎謎ですよ。まあ、いつもながらのへりくつで
すが。

厄年。皆さんも耳にしたことがあるのではないのでしょうか。も
しかしたら、もう経験したことがある方もいらっしゃるかもしれないま
せん。今回はこの厄年についていろいろと書き綴っていこうと思ひ
ます。

まずネーミングですよ。すごいですよ、この『厄』の持つ負
のオーラ。巷では『凶』や『税』や『党』と並ぶほど嫌われている
とかいないとか。この漢字を造った人は天才ですね。『厄』の呪い
にかからずに一生を遂げたことを願うばかりです。

そして、厄年の凄いところはなんととってもその長さ。その長
さたるや、『ハッピーニューイヤー』を叫んで喉を痛めるから始ま
って、節分して鬼に怒られ、花見で酔っ払って上司に悪態をついて、
5月病にかかって仕事が手に付かず、梅雨の雨で携帯を壊し、初夏
で風邪引き、猛暑で倒れ、残暑で脱水、張り切った運動会でアキレ

ス腱を痛め、読書の秋で読みすすめた本は映画公開でオチを先に知り、食欲の秋でブクブク太り、クリスマスにはサンタと間違われ、カウントダウンではジャンプをしたものの、アキレス腱の痛みもあって結局新年の瞬間は地球上にいるの結末で締める、まあー長い長い365日なわけです。

しかもタチの悪いことにこの厄は前後合わせて3年も続くという長期スパン。3年ですって。いやあ、長い。プロ雀士も舌を巻くトリプル厄満ですね。もしかしたら3年寝太郎が寝たのは、このトリプル厄満を回避するためだったのかもしれない。

皆さんも厄年とは上手に付き合ってみてはいかがでしょう。ちなみに僕は、今回『トリプル厄満』というオヤジギャグを言うために、厄年を題材にエッセイを書いたことによって、今後来るであろう厄年に乗せ加算がされないかどうか、今から気が気ではありません。御守り買っておこうと。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その39 厄年について思うこと（後書き）

ご覧頂き有り難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その40 40について思うこと

お疲れさまです。真浦塚真也です。

いやあ、この『へりくつエッセイ』も遂に『その40』を迎えました。当初は『その20』くらいで終わらせるつもりだったのに、もう倍近く。人間でいえば人生半ば。セミでいえば一族の歴史。これも皆さんが読んでくださるお陰です。本当にありがとうございませす。

さて、毎回10回区切りでこうやって番外編みたいな(番外編って書くと、このエッセイがちよっと高貴な作品に感じるのは僕だけでしょうか)形式で書きなぐってきた(書きなぐると書くと、このエッセイがちよっと芸術性がある作品に感じるのは僕だけでしょうか)訳ですが、今回は特に書くことがないので、このへりくつエッセイを書き始めた経緯についてご説明させて頂こうと思います。

『ああ、何か堅そうな回だなあ』と思われたら、『その40』は飛ばし読みしちゃってください。多分『その41』からまたへりくつばかりこねているでしょうから。

『へりくつエッセイ』を書き始めた理由、それは2つあります。1つは馬鹿馬鹿しい作品を書きたかったら。そしてもう1つは『へりくつ』がどうしようもなく好きだからです。

僕は子どもの頃から理屈っぽい人間でした。母曰く『可愛げのないおとなしい子』だったらしいです。そして、『へりくつばっかりこねてるおとなしい子』でもあったらしいです。どちらにせよ『おとなしい子』、要するに寡黙なダンディズム坊やだったらしいです。まあ、『へりくつばっかりこねてる』のだから、決しておとなしい子ではないとは思いますが。

子どもの頃はよく怒られたもんです、『へりくつばっかり言うな。』と。まあ今でもいい年にもなっただけ怒られています。いや怒

られるというよりは叱られてるの方が近いかもしれせん。

ただ、この方たちが言う『へりくつ』って『へりくつ』じゃないんですよ。『屁理屈』なんですよ。僕が好きなのは『へりくつ』であって、『屁理屈』じゃないんですよ。皆さんには違いが分かるでしょうか。僕にもよく分かりません。じゃあ、偉そうに論ずるなという話ですが。

ただ『へりくつ』には、『屁理屈』が持っているような、意地の悪さや、力強さや、相手を言い負かせてやろうという闘争心は全くないのです。『へりくつ』は、弱くて、脆くて、柔らかい、そんなりくつのように感じます。

多分僕が今まで書き綴った36個くらいのへりくつも、そんな弱いでしょうもないものだと思います。でもその柔らかい感じが、僕は結構好きです。『でも』、『だって』、『しかし』に滅法弱い、そんなへなちよこぐわいが、僕はなんとなく好きです。

皆さんにも、そんな感じのエッセイを今後も愛して頂けたら（愛して頂けたらなんて書くと、このエッセイが老舗の箱入り最中みたいに感じるのは僕だけでしょうか）幸いです。

まあ、何が言いたいかと申しますと、今後も『へりくつエッセイ』は、ゆるーくぬるーく進んで行きますのでよろしくお願いしますという事です。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その40 40について思うこと(後書き)

御覧頂き有り難うございます。

評価・感想等頂けると嬉しいです。

その41 東京タワーについて思うこと

スカイツリー。皆さんはもう御覧になったでしょうか。

すごいですよ、スカイツリー。あの堂々たる姿、本当に圧巻ですよ。ダンとしてガツとしてシュツとしたフォルム、スカイツリーの名のごとく空にそびえし大木って感じですよ。

いやあ格好良いです、スカイツリー。なんならスカイツリーの魅力だけを延々と語って今回の戯れ言を終わらせたいくらいです。ただ、残念ながらそうはいきません。実はこのスカイツリーのお陰で、大変な迷惑を被っておられるお方がいらつしやるんです。

…いや、そりや今までそこら一体をマーキングしていたお犬様は大変でしょうけど。あんな直径が長い建物を自分臭に染めるのは、尿道が悲鳴をあげるでしょうけど。今のご時世、マーキングは飼い主さんによって無効にされることをご理解ください。

…いや、そりやスカイツリーのせいで洗濯物が乾きにくくなって怒っておられる主婦の方々もいらつしやると思いますけど。『お陰で』ってのはその陰のことをさしているんじゃないんです。

…そうです。東京タワーさんです。東京タワーと答えた皆さん、サブタイトルをよく読んで頂いて感謝致します。

そうなのです。東京タワーさんが非常に迷惑しているんです。だって考えてみてくださいよ。東京タワーですよ。今まで日本のタワー界を牽引してきた、紛れもなく日本のタワー界代表ですよ。

タワー界代表になるにはさぞかし大変だったでしょう。なにせ札幌のテレビ塔や通天閣、京都タワー等の大御所はもちろんのこと、大分の別府タワーや愛知のツインアーチ138、山口の海峡ゆめタワーといった、ニュースターまで相手にしないといけないのですものね。見てください、東京タワーさんのあのお姿。歴然の戦いのせいで、もう鉄筋だけのガリガリな身体じゃないですか。

それなのに、それなのにですよ。ぽっと出のルーキーが、こと

もあろうに同じ土俵である東京で、333メートルを裕に超える634メートルなんていうデカいなりで、俺は東京なんか目じゃないんだ、俺はもつと上を目指すんだと言わんばかりに、名前に『スカイ』と着けて、立ち上がったんです。

もう東京タワーさんにとつちや迷惑極まりないですよ。最近では、スカイツリーの愚行に身体全体を真っ赤っ赤にして怒っていたり、夜になると真っ青になってしまったり、時には節電と言付けて自分の姿を隠すがごとく闇にとけたりするとかしないとか。

ああーあ。もう情緒不安定ですよ。東京タワーさん、可哀想！

皆さんも、もう一度東京タワーさんに目をやってみてはいかがでしょうか。やっぱり良いもんですよ、東京タワーさんって。

何が良いって、高さがちょうどいい。何ですかね、634メートルって。軽度の高所恐怖症の僕にとつて、恐怖以外の何物でもないですからね。願わくば、東武ワールドスクエアくらいの大きさで収まって頂きたい限りです。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その41 東京タワーについて思うこと（後書き）

御覧頂き有り難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その42 のり弁について思うこと

のり弁。

もう説明はいらないうえ。そのワードを聞いただけで、ああ確かこういう味と明確に想像できる、日本弁当界の重鎮。どこのコンビニに行こうがこの弁当屋に行こうが必ず置いてある、日本弁当界のトップスター。今日のお弁当は何にしようかな、唐揚げにしようか鯖煮にしようかそれともお腹のメタボっぷりに反省して五穀米にしようかとさんざん悩んだ挙句、まあお財布にもやさしいしハズレはないだろうとついつい手にしてしまう、日本弁当界のベストセラー。

まあこれだけ褒めて持ち上げておけば、多少へりくつをかましても穏便に済ましてくれるでしょう。のり弁さん、僕はあなたに、声高々に問いたい、問い正したい。

のり弁に入っている醤油はあんなに必要ですか、いや必要ない、そもそも醤油は本当に必要なのかと。

のり弁さん、今一度ご自身の中身をよく御覧なさい。あなたのごに、あの醤油を受け止める余裕があるというのですか。

僕だって一生懸命探しましたよ。重鎮で、トップスターで、ベストセラーであるあなたが、自分で消化できないものを堂々と見せびらかすように存在させることなんかあるわけないじゃないかと。

でもねのり弁さん。これは事実なんですよ。現実をちゃんと受け止めましょうよ。

ご飯とのりの間には、おかが若しくはあらかじめ味の付いているカツオ節が丁寧な敷き詰められているじゃないですか。もうそれで充分じゃないですか。口いっぱいにはお張れば、まあそれはそれは美味じゃないですか。

おかずだつてそうですよ。鮭は鮭で、軽く塩が振つてあるだろうし、なんといつても、自分自身から出ているあの脂こそが最高の調味料じゃないですか。口に入れた瞬間に感じるあの甘み、旨み、塩加減つていつたらもう…。

申し訳程度にいる、あのピンクの漬物だつてそうですよ。何であれに醤油が必要なんですか。なぜにピンクを汚そうとするんですか。ピンクの漬物にはちゃんとピンクである所以があるはずなんです。ピンクは恋の色なんです。簡単に染めようとししないで下さい、まったくもう。

ほら、のり弁さん。どこに醤油を受け止めさせるつていうんですか。えつ、ちくわの磯辺揚げに任せたって。いやいやのり弁さん。あなたなんてことおっしゃるんですか。ちくわの磯辺揚げにあの容量の醤油を任せるつていうんですか。それは横暴ですよ、単なる横暴。

そんなもの磯辺揚げじゃなくて、醤油がけ磯辺風味じゃないですか。いや、揚げ浸しじゃないですか。磯辺揚げはあれで完成なんです。あの自己主張しない人柄のよさが、磯辺揚げの持ち味なんです。勝手なことをしないで下さいよ。

皆さんものり弁に付いている醤油の存在意義についてもう一度考えてみてはいかがでしょうか。絶対にいらなと思うんだけどなあ。まあ、納豆にふりかけを付け足して食べている僕がなに一丁前にのり弁さんに楯突いているんだと言われればそれでおしまいですけど。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その42 のり弁について思うこと（後書き）

御覧頂き有難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0172f/>

へりくつエッセイ

2012年1月6日23時45分発行